

全国看図アプローチ研究会研究誌  
15号

2022.11

# 目次

---

---

## 実践報告

- 高校化学における看図アプローチを活用した授業実践  
ーイオン化傾向とその社会での利用を学ぶー  
前田敏和・溝上広樹……………3

## 実践ノート

- 看図作文を大学授業の期末レポートに活用する試み  
ー森 寛の中学校授業を参考にしてー  
石田ゆき……………11

- 幼児教育における安全管理に関する授業実践  
ー看図アプローチからの新たな学びー  
仲村 彩・山下雅佳実……………45

## 編集後記

- 鹿内信善……………51

## 実践報告

# 高校化学における看図アプローチを活用した授業実践 —イオン化傾向とその社会での利用を学ぶ—

前田敏和<sup>1)</sup>・溝上広樹<sup>1)</sup>

MAEDA Toshikazu MIZOKAMI Hiroki

キーワード：看図アプローチ・イオン化傾向・Jambord・キャリア教育・高校化学

### 概要

高等学校学習指導要領解説では、「主体的・対話的で深い学び」や「科学技術と日常生活や社会、職業などに関連」が求められている。本稿では、看図アプローチを活用した高校化学の「イオン化傾向」に関する教材を開発し、授業実践モデルを構成した。看図アプローチを活用することで、化学の見方・考え方が応用されていること、科学技術や職業などに関連していることを学習者自身が主体的に学習できる教材を開発することができた。本稿で提案した授業は「主体的・対話的で深い学び」の授業モデルになり得ると同時に、教科におけるキャリア教育に繋がる実践であることが示された。

### I. 背景・目的

平成30年告示の高等学校学習指導要領解説では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。また、「科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、数学・理科で学習することが様々な職業などに関連していることにも触れること。」となっている。

生徒が主体的に学習を進め、教科の「見方・考え方」を働かせ、対話によって、学びを深めていく実践として、看図アプローチを活用した授業実践が研究されている（鹿内他 2013,2015）。さらに、高校生物における先行事例が報告されている（溝上他 2016,2018,2021）。

本授業実践で重視する点は次のようなものである。「理科で学習する原理・法則が日常生活や社

会と深い関わりがあること」「科学技術の発展が様々な作業の効率化をもたらすこと」「キャリア教育の視点からも物事を考えられるようにすること」。このような視点をもった理科の授業実践例は少ない。また、高校化学での看図アプローチ実践も報告されていない。

そこで本研究では、高校化学における看図アプローチを活用した授業実践1コマについて報告する。ここでは「イオン化傾向」とその社会での利用に関する教材を選定した。

### II. 授業の実際

#### II-1 授業者および学習者

授業は「化学」の時間を用いて、電池分野の最後の授業として行った。授業は第1筆者前田が高校3年生を対象に行なった。

1) 熊本県立熊本北高等学校

## II-2 ビジュアルテキスト及びワークシート

### ビジュアルテキスト

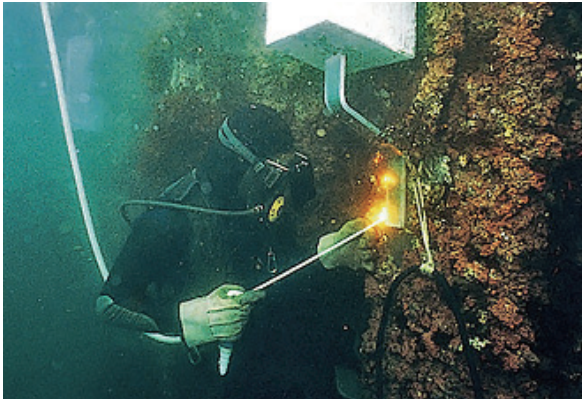


図1 生徒に提示した写真<sup>(注)</sup>

### ワークシート

化学のワークシート

年 組 号 名前

- (1) 写っているもの（名詞）を書き出そう。
- (2) 名詞をつなげて、関連付けよう。動詞を使ってOK。
- (3) この写真は何をしようとしているのか、その目的も含めて推論してみよう。
- (4) 授業を受けたあとの写真について

※各記入欄省略

## II-3 授業の進め方

### 【ステップ1】導入

- a) 「生徒に提示した写真」（図1）をプロジェクターで投影する
- b) 写真と発問を記載したワークシートを学習者に配付する

以上の準備が整ったら、ワークシートの問い(1)を投げかける。学習者は個人ワーク後に1人1台端末であるChromebookで、Jambordのデジタル付箋に記入する。この方法を利用することで、全員が写っているものを共有することができる。生徒は、注意深く写真を観察し、「ゴーグル」「チューブ」「コンクリート」等の様々な名詞をあげていた(図2)。



図2 ワークシートの問い(1)に対する回答例

次にワークシートの問い(2)を投げかけて、個人で記入させる。個人ワークで書いたものをペアで共有し、ペアでひとつの回答を考え、Jambordのデジタル付箋で全体に共有する。溶接作業をしているという回答が多くみられるが、対象は「岩」「金属」もしくは対象の記載無しと、意見が分かれた(図3)。

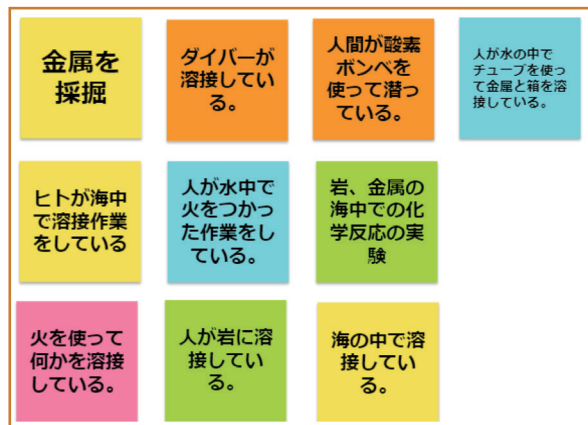


図3 ワークシートの問い(2)に対する回答例

次にワークシートの問い(3)を投げかけて、個人で記入させる。その後個人で書いたものをJambordで共有するように指示する。ここでは、

溶接の対象が、沈没船や岩といったものになり、沈没船の調査、岩の補強、水質調査、海を電池にするなどといった回答が得られた（図4）。

この段階で、ダイバーの背景にも同様の白い物が存在することに気づく生徒もいて、活発な意見交換が起こった。

【ステップ2】展開

授業後に再度、ワークシートの写真が何をしているかを予想してもらうことを予告して、電池の授業を行う。授業では、プレゼンテーションソフトを使用して、イオン化傾向から、ボルタ電池、ダニエル電池までの説明を行った（スライド1～4）。



図4 ワークシートの問い（3）に対する回答例

**イオン化列**

金属のイオン化傾向を、その大きさの順に並べたものを**イオン化列**といい、反応性の違いは金属のイオン化傾向と深い関係がある。

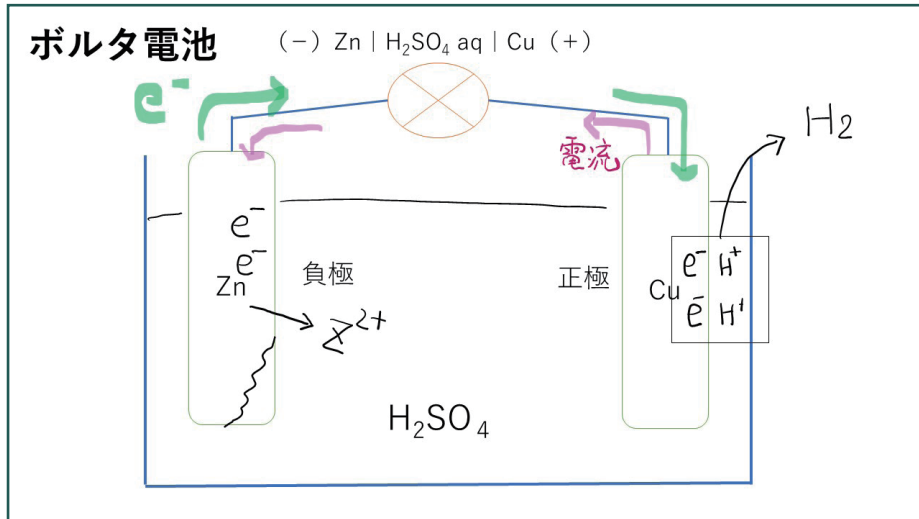
Li	K	Ca	Na	Mg	Al	Zn	Fe	Ni	Sn	Pb	H <sub>2</sub>	Cu	Hg	Ag	Pt	Au
----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------------	----	----	----	----	----

イオン化傾向が大きい ←————→ イオン化傾向が小さい

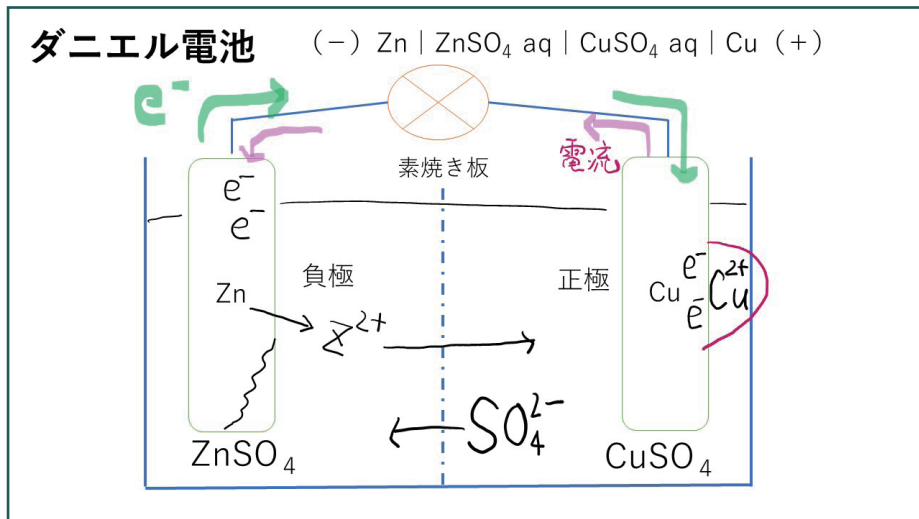
陽イオンになりやすい ←————→ 陽イオンになりにくい

反応性が大きい ←————→ 反応性が小さい

スライド1



スライド 2



スライド 3

**反応のまとめ**

<b>ボルタ電池</b> $(-) \text{Zn}   \text{H}_2\text{SO}_4 \text{ aq}   \text{Cu} (+)$			
負極	$\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + 2\text{e}^-$		酸化反応
正極	$2\text{H}^+ + 2\text{e}^- \rightarrow \text{H}_2$		還元反応
<b>ダニエル電池</b> $(-) \text{Zn}   \text{ZnSO}_4 \text{ aq}   \text{CuSO}_4 \text{ aq}   \text{Cu} (+)$			
負極	$\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + 2\text{e}^-$		酸化反応
正極	$\text{Cu}^{2+} + 2\text{e}^- \rightarrow \text{Cu}$		還元反応

スライド 4

【ステップ3】まとめ

ワークシートの問い(4)を投げかけ、個人で記入させる。次に4人グループでそれぞれの考えを共有し、Jambordで全体共有を行う。授業者の説明を取り入れた、発電や電池に関する回答が目立った(図5)。

最後のまとめでは、図1は海の中であり、岩のように思っているものは鉄の構造物が錆びていること、また溶接しようとしているものは亜鉛やアルミニウムなどからなる合金であることを明かす。またその意図については、橋などの海の中の構造物をつくる鋼材(鉄)を腐食(酸化)から守るためであることを説明する。その原理は、鉄よりイオン化傾向が大きなアルミニウムや亜鉛を溶接することで、鉄の代わりにアルミニウムや亜鉛が反応し、鉄がさびることを防ぐことを説明する。授業後の生徒感想を一部紹介する。

- そんな応用の仕方があるんだなと思った。楽しかった。
- 考えた人がすごい。
- 予想するのは楽しかった。学習内容がどう使われているのか理解できた。
- 金属を得るためではなく、その金属を守っているというのが予想外だった。そういう

仕事をしている人にも感謝したい。

- 橋の酸化をこんな方法で防いでいるのにびっくりした。
- 化学の力はすごいと思った。
- 電池のしくみを生かして、橋の補強をしていることは興味深かった。
- 自分が想像していたものよりも深く考えこまれていて関心が持てた。
- 鉄が岩にしか見えなくて、電池までいきつけなかった。難しかったけど、とても楽しかった。
- はじめ予想もできないくらいわからなかったけど、目的を聞いて、納得してすごいと思いました。
- 電池のしくみを利用して、橋が悪くなるのを防いでいる。今までの使い方じゃなくて、応用して違う目的を果たしていてすごいと思った。
- ダニエル電池を発電として使うのではなく、還元に着目して利用する発想が面白かった。箱のようなものが亜鉛だと気づけなかったことが少し悔しいです。
- 予想と大外れで面白かった。
- 思っていたものと全然ちがってびっくりした。これをしようと思った人はすごいと思

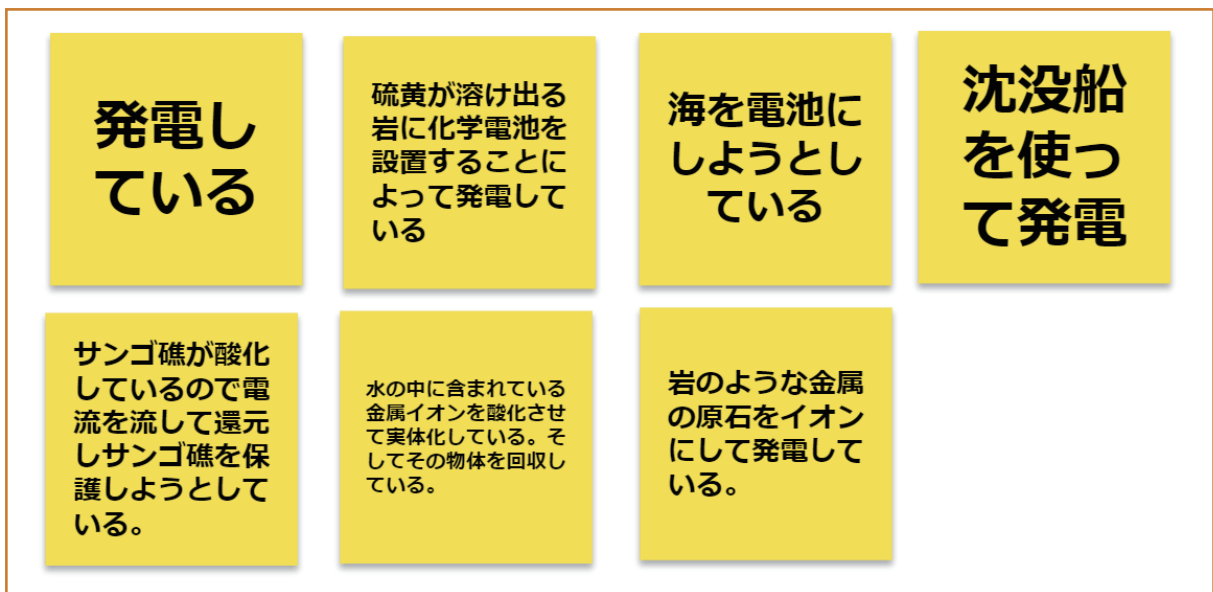


図5 ワークシートの問い(4)に対する回答例

■ います。

予想と外れることを楽しんでいる生徒が多数おり、写真をよく見て予想することで興味関心を高め、さらに化学の見方・考え方が、鉄橋の効率的な補強に応用されているという深い学びに自然と導かれていた。

さらに、この方法を考案した人やこのような仕事をしている人に思いを馳せて、感謝までしていることは興味深い反応である。

### III. 考察と今後の課題

本研究では、高校化学の「イオン化傾向」における看図アプローチを活用した教材を開発し、授業実践を行った。看図アプローチでは、高校化学の授業においても生徒の意見や予想を活発に引き出すことができた。

一般的に授業前の予想では、これまでの学習の理解度や既習の知識によって、予想の質が変わってくる。しかし、看図の場合、誰もが同じスタートラインに立つことができる。このように生徒の学習の到達段階によらないため、多くの生徒が授業に活発に参加でき、多様な意見が出される点は、看図アプローチの長所であるといえる。

また予想が外れた際に、くやしいと感じる生徒や予想を越えた発見を楽しんでいる意見が出され、正解に辿り着こうと積極的に考えたり、現象の深い理解を楽しんだりしている様子が見取れた。現象の正しい理解に、教科の見方・考え方が重要であること、その見方・考え方が人々の生活を支えていることに、生徒自身が気づくことができていた。

さらに本稿で報告した授業では、看図アプローチによってキャリア教育の視点を育むことができていることも特筆すべき点である。教員からの教え込みや誘導無しに、科学技術だけでなく、それを生み出した人やその仕事に携わる人への視点が、生徒の中に自然と生まれていた。

本稿で報告した授業は、「高等学校学習指導要領解説」が求めている「主体的・対話的で深い学

び」や「科学技術と日常生活や社会、職業などに関連」に関する授業モデルになり得るものと思われる。今後、同様に授業参加への積極性を高め、科学技術の素晴らしさや、それを扱う人々への感謝といった感情を育てることができる、教育効果の高い教材を高校化学の分野でもさらに開発し、普及していく必要がある。

### 引用・参考文献

- 文部科学省 2018 【理科編 理数編】高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説  
[https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt\\_kyoiku02-100002620\\_06.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_06.pdf)
- 溝上広樹・吾妻行雄・鹿内信善 2016 「高校生物における看図アプローチを利用した授業実践－ウニからその生態と東日本大震災を考える－」『福岡女学院大学大学院紀要・発達教育学』 創刊号 pp.181-195
- 溝上広樹・鹿内信善 2018 「動物園を教育資源とした『総合的な学習の時間』授業づくりの予備的検討：看図アプローチを用いて」『福岡女学院大学紀要・人間関係学部編』 第 19 号 pp.1-6
- 溝上広樹 2022 「1人1台端末を利用した高校生物における看図アプローチ授業実践」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 12 号 pp.3-9
- 鹿内信善 2015 「改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方－看図アプローチで育てる学びのカー」 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2015 「『見ること』から始める授業づくり看図アプローチとは何か」『看護教育』 Vol.56 No.8 医学書院 pp.774-779

### 謝辞

本研究に際し、写真の使用及び掲載許可を頂きました「日鉄防食株式会社」の関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。また、授業デザイン会及び振り返り会に参加して頂きました築義彦先生・藤田真実先生・寺田昂世先生に心より感謝申し上げます。



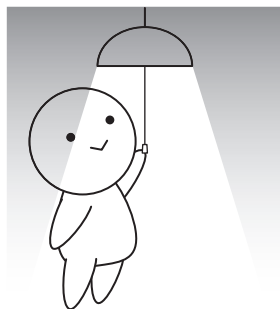
げます。

注；図 1「生徒に提示した写真」は，日鉄防食株式会社ホームページ掲載の写真を活用した。

<https://acc.nipponsteel.com/solution/engineering.php>

2022 年 8 月 14 日受付

2022 年 8 月 23 日査読終了受理



## 実践ノート

# 看図作文を大学授業の期末レポートに活用する試み

—森 寛の中学校授業を参考にして—

石田ゆき<sup>1)</sup>

ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・看図作文・教育心理学・主体性・創造性

### I. はじめに

筆者は医療系A大学で「教育学」と「教育心理学」を担当している。各科目の対象はそれぞれ1年生と2年生、授業回数は各8回。どちらも選択科目であり1コマ90分相当である。「教育学」の授業の一部については石田(2021a, 2021b, 2021c, 2021d)でオンライン形式の実践例を報告してきた。しかし、2年生が対象となる「教育心理学」授業については未だほとんど実践報告をしてきていない。本研究誌では石田他(2019)のみである。そこで本稿では「教育心理学」授業の「期末レポート」の記録を紹介していきたい。期末レポートでは看図作文を書いてもらっている。看図作文を書いてもらう手順は、森寛(2022a)に倣っている。

「教育心理学の授業の全貌を紹介していないのにいきなり期末レポート？」とツッコミが入りそうではあるが、8回の授業の詳細については別の機会にまわしたい。本稿では、看図アプローチ基盤型授業を8回(または16回)経験した学生がどれくらい「主体性」「創造性」を発揮できるようになるのか、いち早く読者の方にお伝えしたい。

### II. 実践の経緯と倫理的配慮

「いち早く読者の方にお伝えしたい」とは言う

ものの、最低限の経緯は書きたいと思う。

筆者は例年、教育心理学初回授業のガイダンスで「この科目では主に『主体性』『創造性』『思考力』『表現力』を『見ること』を通して学んでいきます」ということをアナウンスする。この科目は「学習者が自分の頭で考えて実行・表現できるようになる」ことを目標とした授業である。シラバスの内容の一部を掲載しておく。「授業の概要」はA大学が策定したものである。「授業計画」はA大学から示された「授業の概要」をもとに筆者がまとめたものである。

#### 【授業の概要】

学校、家庭での教育・訓育活動、そのもとの児童・生徒の学習や活動およびその相互作用の結果として生じる子供の精神発達、人格形成の諸過程など、一般に教育過程・教育事象といわれる諸過程・諸事象について、心理学の方法で接近し、それらの諸過程の心理学的合法則性を明らかにし、そのことを通じて、教育実践に貢献することを目標にしている学問である。授業の中では、教育心理学を基礎とした体験学習の組み立て方を学び、実践し、その仕組みを教育心理学的に整理していく。

1) 日本医療大学

【シラバス】

第1回目	【ガイダンス等】 体験学習入門
第2回目	【「予測－確認」活動の心理学的意義】 照合特性の動機づけ効果について学ぶ
第3回目	【新しい学力観】 ヴィジュアル・リテラシーの育成について学ぶ
第4回目	【内面表出技法（1）】 内面表出エクササイズと教育心理学的意義について学ぶ
第5回目	【内面表出技法（2）】 内面表出エクササイズと教育心理学的意義について学ぶ
第6回目	【創造性（1）】 創造性の開発技法について学ぶ
第7回目	【創造性（2）】 創造性の開発技法について学ぶ
第8回目	【自己教育力を未来につなげる】 自己開示等について学ぶ

すべての授業で協同学習スタイルをとっている。各授業においてはアクティブ・ラーニングの要素として、看図アプローチ、内面表出エクササイズ、クリエイティブ・アクティビティーを採用し実施している。毎時間必ず、ビジュアルテキストの読解活動を取り入れた看図アプローチ基盤型授業を展開するところが筆者の授業の特徴といえる。

本稿執筆にあたり次のような倫理的配慮をした。履修者からはレポート等を授業の中で紹介すること及び論文等で紹介することについての承諾を書面によって得ている。承諾を得られなかった学生（承諾書未提出も含む）の資料は活用していない。このため履修登録者は74名であるが、本稿では72名分のデータを用いた。

教育心理学の授業を履修する学生は、1年次に教育学の授業を履修している場合が多い。そのため学生たちは、筆者の授業が看図アプローチ基盤型授業であることも、グループディスカッションを多用した協同学習形式であることもすぐに受け

入れてくれる。むしろそういう時間を求めて履修する学生が多い。もちろん2年生になって初めて筆者の授業を履修する学生もいる。筆者の授業を初体験した学生の感想には次のようなものがあった。なお2022年度に筆者の授業を初めて履修した学生は74名中14名である。「初めて」という言葉が出てくる感想を一部抜粋する。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例1

私は教育学を取ってはいなく、今回初めて先生を見たし、進め方も初めてだったが、グループワークをする授業はほんとに少なく、自分の意見を言う授業もほとんど無いため、楽しいと思った。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例2

去年教育学を履修していなくて初めて先生の講義を受けるのですが、他の講義のように決まった答えがあるわけではなく、唯一決まりのない答えを出すことができ、自由に考えることができる講義で、そのような講義が割と好きなので履修しました。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例3

私は教育学は受講していなかったので今回初めて受講することになりましたが、大学の他の講義では座学が多めであまり他の学生と話す機会が少ないので受けていて結構楽しかったです。これからの講義も楽しみです。

初めて筆者の授業を履修した学生の感想例3

はじめの「教育」についての講義で、学べることが多くありました。イラストの読み解きを通して「もの」や「こと」についての理解が周りの年齢が同じ人であってもこんなにも違いが出るのかと驚きました。大きな違いでなくても表現の仕方や捉え方次第で変わること気づけました。フォックスの実験からも、お互いの考えで実験結果の要因についてなども差が出るし、その差には知識だった

り感情論だったりさまざまで色々な会話ができてとても楽しかったです。次回はまた他の人ともいろいろな会話ができるとより楽しそうだなと感じました。

#### 初めて筆者の授業を履修した学生の感想例 4

今回、石田先生の講義を初めて受けたので、こんなにグループワークがあるとは思いませんでした。私はグループワークや意見交換などがとても好きなので、講義がすごく楽しかったです。大学に入ってこんなに講義を楽しめたのは初めてでした！来週の講義も楽しみです。

また、2年連続で筆者の授業を履修することになった学生の感想には次のようなものがあった。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 1

石田先生、お久しぶりです！1年生の教育学ぶりです！この講義では1つのものを色々な角度から考える能力が付くと思っています。また、あえて答えが無い様な問題をみんなの意見をまとめてディスカッションする事で考えの幅を広げる事が出来ると思います。1つでも他の人と違う意見を出して主体的な学びを目指したいと思います！どうぞ宜しくお願いします！

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 2

約1年ぶりの教育学（教育心理）すごく楽しみにしてました。あの頃に比べたら友人と相談したり、会話することは多くなりましたが、授業の中で討論するなどの時間は無く、久しぶりの感じだったので、とても楽しかったです。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 3

今回授業で見たきゆうちゃんのイラストはシンプルなものでしたが、アイズブレイクを通して様々な見え方があることが発見でした。

自分だったら思いつかないような発想をしている方が何人かいて、見え方というのは無限大だと感じました。また、発想力次第で見え方というのは広がってくると思うので、今回の授業を通して発想力を身につけていきたいと思いました。また、発想力はリハビリテーションを行う際にも求められます。患者さんがより積極的にリハビリに取り組むためには興味を持てるようなリハビリ計画を考案したりすることが大切です。もちろんリハビリの知識は大事ですが、発想力を応用して将来セラピストになった際には患者さんにより良いリハビリを提供できるようにしていきたいです。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 4

昨年も先生の講義を履修しましたが大学ではめったに聞くことのできない友達の考え方を聞くことのできる教科でとても楽しく、得るものが多かったので今年も履修しました。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 5

石田先生お久しぶりです。先生の授業がもう1年前になると考えると1年があつという間でした。昨年授業でやった江別のレンガは1番覚えてます。先月江別に行ったのですが、その時もこれが先生の言ってたレンガかと話になるほど先生のことを忘れていませんでした。そして、今日の授業の感想ですがラウンドロビンとバズセッションはやり方は覚えていたけど言葉を忘れていて悔しかったです。僕は覚えていた気になっていただけなのだとても思いました。もしかしたら、先生の授業がこれが最後かもしれないのもう忘れないようにしっかり話を聞こうと誓いました。今年も1年よろしくお祈いします。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例 6

石田先生お久しぶりです！1年生の頃に教育学を受けていた、〇〇です！覚えていらっ

しやらないとは思いますが、私は久しぶりに石田先生の姿をお見かけすることができて、すごく嬉しかったです！ずっとメールを送りたかったのですが、先生はお忙しいので渋って渋って控えさせていただきました（笑）。また今日から教育心理学の授業を通して合法的にメールをお送りできるということで、すごくハッピーな気持ちでいっぱいです。今日の授業を楽しみにしていました！お忙しいとは思いますが、私の長いメールを全て読んでもらえるとうれしいです！今日の授業で、1年前の教育学でやった「見ること」が再び登場してくれて、懐かしく思いました。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例7

私は教育心理学は一年生のときに教育学を受講して、とても面白かったので二年生でも受講したいなと思って選択しました。自分と異なる考え方に触れることが、このような機会でしかなく、話し合いをすることが面白いということを知ってしまったので二年生でも受講できてよかったです。これからよろしくお願いします。

#### 2年連続で筆者の授業を履修する学生の感想例8

1年生の時の石田先生の授業を受講して次も受けたいと思い、この授業を選択しました。前回、「みる」に焦点を当てた授業で受けていてとても楽しく、セラピストとしての役に立つ知識を得ることができたと思います。そのため、私は前回の授業を通して「私も楽しく、リハビリをしてもらいたい！」という気持ちが強くなり、もっと先生の授業を受けたいなりました。専門的な知識ばかりを多く学ぶ大学生活ですが、この様な接し方の授業はないため取ってよかったと思っています。あと、個人的な話ですが最後のレポートに先生が返信してくれたのがとても嬉しかったです！今でもメールに付箋を貼ってとっておいています。これからもよろしく願いいたします。

私情を挟んで恐縮ではあるが、「お久しぶり」「懐かしく感じた」「今年もよろしく」といったメッセージが多く見られることは大変喜ばしいことである。喜ばしいので予定よりも多めに掲載してしまった。看図アプローチ基盤型の授業は多くの学生に好意的に受け入れられてもらえるという証左になれば幸いである。

このような学生たちに、ビジュアルテキストを主体的に読み解いて、読み解いた内容をグループで共有して、考えを深めて、レポートにまとめる、という授業を繰り返し行った。筆者は授業の多くの時間をビジュアルテキスト読解とグループディスカッションにあてている。第2回目以降の授業の冒頭では、前時のレポートから全体共有したいレポート・優秀レポートを選び紹介する時間を設けている。この授業方法は鹿内（2020, pp.31-40）を参考にしている。全体共有したいレポート・優秀レポートをスライドで示しながら補足情報を伝えたり、解説したりする。このプロセスに出欠確認などを含めて約20～30分要する。つまり、筆者は毎回60分（授業全体の2/3）は看図アプローチ基盤型授業を行っている。1回だけ、ビジュアルテキストに加えて「詩」や「日本語表現」を読解テキストにする回がある。しかし「主体的」「創造的」に学ぶという点で、「教育心理学」としての目標や視点はぶれさせていない。

### Ⅲ. 期末レポートは看図作文一本！

学習者たちは教育心理学授業において、筆者の代名詞でもある「きゅうちゃん」（例えば石田他2019）や、「魔法使いのおばあさん」（鹿内他2007, 鹿内編著2010）、「郵便うさちゃん」（鹿内他2008, 鹿内編著2010）、「飛行機」（例えば鹿内2015）等々、様々なビジュアルテキストの読解をこなしてきた。いったいどれくらい「主体性」「創造性」が育まれたのであろうか。これをはかるのにもってこいの課題を、最終8回目授業の終わりに呈示した。「20枚の絵図」、絵図識別名称「温度差」を用いる。この絵図の一覧は森（2022a）に掲載しているため本稿では省略する。

「通常の『看图作文』では、ストーリーをつくる段階で『協同学習』の時間をとる。(森 2022 a, p.16)」しかし、レポート課題として活用することで協同学習を行えない状況をつくるのである。それにより「自分で考え、自分で表現の工夫をする」ことを促す。このようなことから、「主体性」「創造性」をはかるのもってこい、であると考えた。

課題呈示の仕方は森(2022a)とほぼ同様である。次のようにすすめる。

① 1 グループに 20 枚 1 セットを裏向きに配付する。(感染対策のため座席は大学側で指定している。このためグループ編成は基本的には座席順の 4 人ずつである。当日は座席配置の都合や欠席者の有無によって 3～5 人グループができていた。グループは全部で 20 個あったので絵図は 20 セット用意した。絵図 1 枚のサイズは A6 サイズ。)

② 裏向きのまま 1 枚ずつ順番に引いてもらい、ひとり 3 枚の絵図を取ってもらう。

③ 「その 3 枚で、看图作文を書いてください。どの絵図の順番で書いたかわかるように絵図の上にある識別番号を明記してください。絵図 1 枚ごとに段落を変えてもらったら順番がわかりやすいと思います。私(石田)も誰にどの絵図がわたっているかわからないので、とにかく、どの絵図の順番でお話が展開していくのかわかるように書いてください。魅力的なタイトルもつけてください。字数は 400～800 字です。字数は超えても OK です。夢オチなし、ハッピーエンドをお願いします。期末レポートは看图作文、これだけです！創造性と主体性を発揮した作文を楽しみにしています。」と伝える。

学生にとっては期末試験期間が近いタイミングではあったが、3 日で仕上げてもらうことにした。(第 8 回目授業が 7 月 28 日で提出期限は 7 月 31 日 13:00 とした。他科目の試験は 8 月 3

日からというスケジュールである。)なお、2022 年度は第 1 回目～第 6 回目で計 6 回のレポート課題を課した。成績評定はこの 6 回分のレポートと期末レポートによって行った。

#### IV. どんな作文が書かれたか

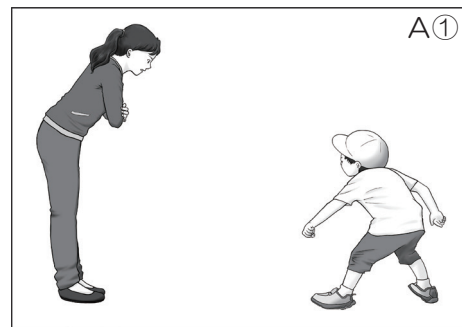
学生たちがどの 3 枚を手にし、どのような看图作文を書いたのか、以下に 26 例紹介する。本来であれば選定(評価)基準を明確化すべきであるが、本稿は実践ノートであるので筆者の主観によって作文を選定した。なお、明らかな誤字脱字は修正した。また、改行位置の調整程度の構成を施した。

##### 学習者 1 の看图作文

タイトル【アイスはこちらの手に! ?】

『よし!! このアイスをかけてゲームで勝負だ!』隣の家に住んでる幼馴染の男子の家に遊びに来た。冷凍庫に 1 つだけ残ってたアイスをどっちが食べるか、これからゲームで対戦することに。「あんたなんか絶対負けないからね! ?」こいつに負けてたまるか、アイスは絶対私のもの!

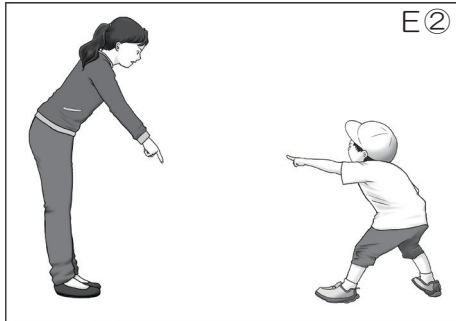
キャラクターを選んで、いよいよ対戦の時。



「あんたそんな子供のキャラクターで戦うの! ? 弱そう〜。」『は! 知らねんだこれゲーム強い、お前こそそんな弱そうな女のキャラクターで本当にいいのかよ?』「これ弱そうに見えて強いから、私これで負けたことないし!」『ほえ〜ま、俺に勝てるなんて 100 年早いな!』くそ〜ムカつくことしか言わないんだから。今に見てなさいよ、アイス食べれ

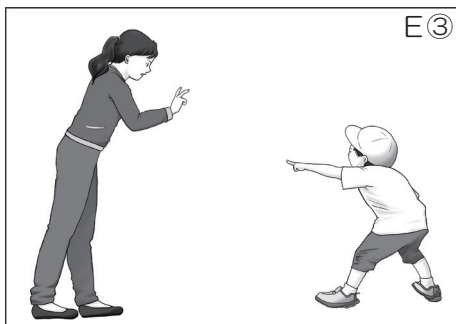
なくて泣いてる未来が待ってるわ！

いざ、開始！『いけえええ』『とりや！！』私には作戦がある。パワーをためておいて、油断したすきに必殺技をかましてやる！



「ビーム！あ、間違えて下にビームしちゃった！」『今だ！ビーム！！』やばい、ビームの方向間違ったせいでやられた！『へっ弱すぎだろ、こんなんでも俺に勝とうとしてたのかよ。』きいい～ムカつく！！

残る命はあと少し。このままだと先に私のキャラクターが倒れてしまう。『俺がビームをしたら一発アウトだな！』ふっふっふ、そんなこと言われるのも今のうち。いよいよ"あれ"を披露する時が来たようね。『これでアイスは俺の物！ビーム！』よし、今だ！「あんたなんかには食べさせるもんか！いけ！必殺技！」



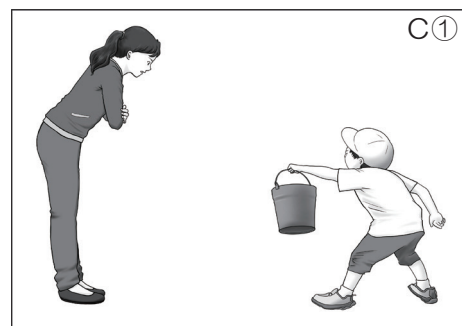
『うわっ必殺技"ピース"！？』-ドオオオ-…見事逆転勝利！！子供のキャラクターは私の必殺技ピースをくらい、飛ばされていった。「勝ったー！アイスゲットー！」ダッシュで冷凍庫に向かって走る。『くそっ…アイス…』負けて落ち込んでるみたい。「いいでしょ～！ん～美味しすぎる！」戦いに勝った後のアイスは、格別に美味しかった。

学習者2の看图作文

タイトル【それは消せない】

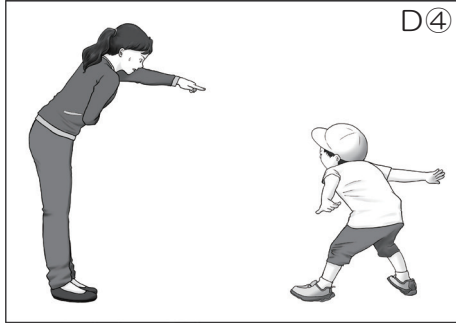


これは放課後の掃除の時間のA君と先生の物語である。Q学校の生徒である男の子A君は先生をからかうことが好きで、今日も掃除の時間にふざけて遊んでいました。ほうきで野球をしたり、雑巾を投げていました。そして今度は水の入ったバケツで遊ぼうとした時、先生が来て「A君何遊んでるの！早くバケツを置いてみんなと一緒に掃除しなさい！」とA君に言いました。すると、A君は「違うんだよ先生。先生が最近疲れているように見えたから、疲れが吹っ飛ばすようにバケツを使ったマジックを見てもらいたくて、家でたくさん練習してきたんだ」と悲しそうな目で言われたので、先生も戸惑ってしまいました。



A君の思いを受け取った先生は「わかったわ。それならマジックを見てください！でもみんな掃除してるから、そんなに時間はかけないでね」とA君に言いました。「ありがとう先生。では早速、マジックを始めていきたいと思えます。このバケツが一瞬にして消えたらすごいと思いませんか？」とA君は先生に言いました。先生はA君のマジックを夢中で見ています。





「1.2.3 はい！」なんと A 君の合図の後、本当にバケツが消えてしまいました。先生も子どものマジックだと思って侮っていたため、驚きました。先生は「A 君すごいね！ほんとにバケツを消してしまうなんて」と言い、その言葉を言われた A 君はご満悦です。しかし、先生はあることに気付きました。それは、A 君の後ろにバケツが転がっていて、バケツの中の水も全部溢れていたことです。先生は「A 君？後ろにあるバケツはどういうことかな？まさかだけど、あれが消えたバケツとは言わないよね？」と言いました。A 君はすぐに逃げて、先生は A 君を追いかけてきました。先生は A 君を叱ること、そして新たに濡れた床を拭くという仕事が出来てしまいました。マジックでバケツは消せても先生の疲れは消せなかったようです。Q 学校は今日もいつもの賑やかな雰囲気です。1 日を終わりました。

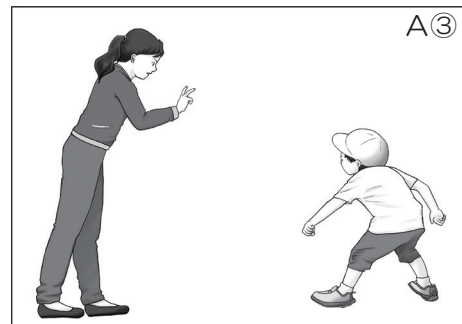
学習者 3 の看图作文

タイトル【幼い恋心】

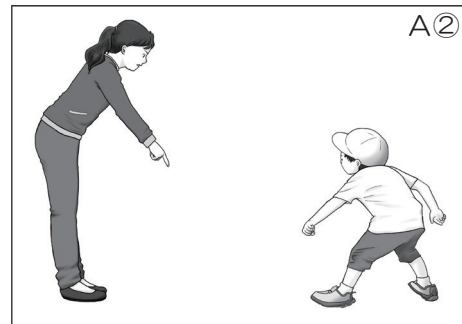


僕は幼稚園の先生が大好きだ。先生はいつも僕と遊んでくれるし、ダメなところがあれば怒ってくれる。こんな素敵な人はこれから先、現れないと思うんだ。だから僕は、先生

に毎日「好きだ」と伝えてるんだ。言葉にしないと思いは伝わらないからね。でも、先生は言うんだ。「大きくなったらもっと素敵な人が現れるよ！」って。僕は先生以上にいい人になって出会えないと伝えているのに、信じてくれないんだ。だから、先生に僕のいいところをアピールする作戦に変更したんだ。バケツ一杯に泥団子を作って、プレゼントすることにしたんだ。お外遊びの時間全部使ってたくさんきれいな泥団子を作ったから、これを見れば、先生はきっと僕のこと少しは好きになってくれるかなって思ったから。



それで、先生にバケツ一杯の泥団子をプレゼントしたんだけど、先生は喜んでくれたけど、「お部屋の中には入れることはできないから戻ってきてね」って、言ったんだ。先生にあげることができなかったから少しショックだったけど、喜んでくれたし、僕が料理もできるいい旦那さんになれるっていうアピールはできたよね！そのあとも先生にアピールをし続けたんだけど、先生はなかなか僕の気持ちを受けとってくれなかったんだ。「あと、二年たったらね、



「あと一年たったらね」って。そうやって僕が幼稚園を卒業するまで延ばすんだ。先生

は僕が大きくなったら、先生じゃない人を好きになるって言っていたけど、どれだけ大きくなっても僕は先生のことを大好きでいられる自信があるんだ！それはね、僕がお友だちと喧嘩しちゃったときにほかの先生は僕が悪いことをしたんだって、決めつけてきたのに、先生だけが僕のお話を最後までちゃんと聞いてくれたんだ。その時に先生が大好きになったんだ。だからこれからも、毎日先生に「大好き」って伝えるからね！先生が好きになってくれるまで、僕、頑張るね！

#### 学習者4の看图作文

##### タイトル【怒りっぽいひろみ先生】

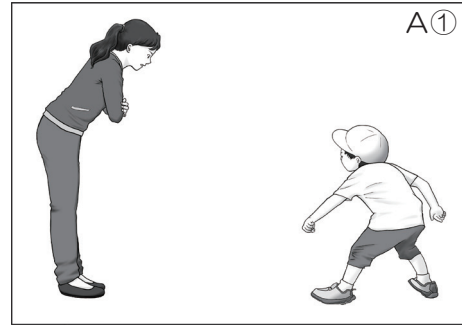
これは幼稚園児ときれい好きで怒りやすいひろみ先生の考え方が変わった1日のある一部分を物語ったものである。



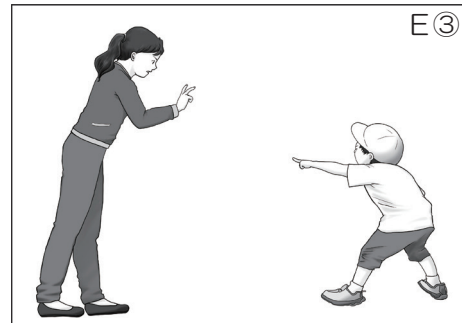
今日、〇〇幼稚園は1日中数字や日本語のお勉強はなく、ただただお外でお友達とたくさん遊ぼうという予定の1日でした。あっちでは砂遊びこっちは鬼ごっこ、ボール遊びなど自由に遊んでおり、ひろみ先生は疲れていました。そんなところに年中さんたちのひまわり組のりょうまくんがどうやら今日は絶対怒らないと決めていたひろみ先生のところに走っていったみたいです。

「ひろみ先生、見て見て見て、こんなにいっぱい虫を捕まえたんだよ。」「こ、こ、こ（危ない危ない怒るところだった。）」「りょうまくん何こんなにたくさん捕まえてきたの？」「まず、ダンゴムシでしょ、ミミズでしょ、ありでしょそれ以外もいっぱい捕まえてきたよ。」（どう

したら優しくできるかな、そうだ、褒めながら手を洗うよう勧めてみよう。）



「すごいね、こんなにたくさん虫さん捕まえてきて！でも、こんなにちっちゃいところに入れられちゃったら可哀想じゃない？虫さん逃してあげてひろみ先生と砂遊びしない？」「するする！」（りょうまくん虫を逃す）「そしたらひろみ先生りょうまくん手がきれいな方が嬉しいな、手洗って来れるかな？」「はい、わかったよひろみ先生。」数分後、（りょうまくんやけに遅いなあ、もしかして手洗わないで遊びに行っちゃったかな。）数10分後、（ひろみ先生一つと大きな声が出た。）「また、りょうまくんの声だ。きっとまたいっぱい汚れてくるんだろうな。」

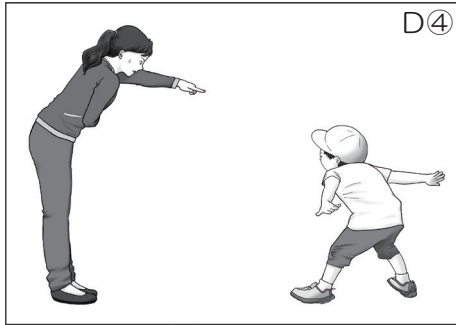


「じゃーん！手も顔も足もきれいにしてきたよ！」「本当だ偉いねりょうまくん！ちゃんときれいにできたんだね！」「ひろみ先生、ピース！」「ほんとに偉いね」（ひろみ先生もピースをする。）「ひろみ先生砂遊びしよう。」「うん、そうしようか。」

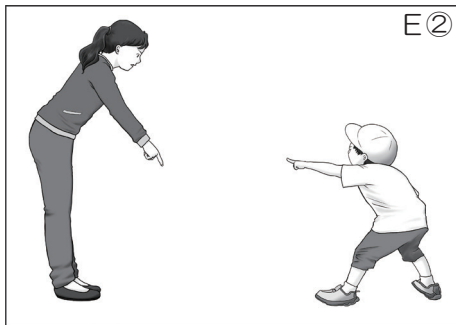
こうして、ひろみ先生はただ怒るのではなく子供の行動を否定しないで正しい行動に導くということの大切さを学んだのでした。

学習者5の看図作文

タイトル【波乱な運動会】



今日は待ちに待った運動会である。この日のために子供達はもちろん、私達教師も沢山準備してきた。無事に終わるといいな！今は3.4年生の50m走。一生懸命走ってるな～！皆輝いてるよ！…あれ、誰かこっちに向かって走って来てるような…。あれは…太郎くん！？何かあったのかな？「太郎くんどうしたの！？怪我し…てなさそうね。ゴールは向こうだよ！」「だってどうせビリなんだから寄り道しても変わらないでしょ～へへっ！」まあ、確かにそうだけれども。「ほ、ほら！ゴールする事に意味があるって言うじゃない？太郎くん先生と一緒にゴール行こっか！」「え～、ビリなんだしいいじゃーん。」



ふう、何とかゴールした…。やっぱり1度ビシッと言った方がいいよね。「太郎くんちょっとこっち来よっか！いい？ビリでも最後まで走ったら太郎くんのパパとママ喜ぶと思…」「あ！パパとママだ～！」って聞いてない。折角の運動会で怒るのもなあ。「そ、そう！パパとママが見てるから最後まで頑張ろっか！ね、太郎くん！」「うん！最後まで頑張る～！」ん～、これでよかった…のかな？



運動会も終盤になってきたな～。3.4年生最後の種目は借り物競争だ。次は太郎くんの番。お願い、無事にゴールまで走りきって！お、いいよいよ！カード何引いたんだろう。バケツ持って走った！よし！1位だよ！…ん？何故方向転換！？なんでこっち来ちゃうかな。「太郎くんどうして1位だったのにこっち来ちゃうの。ゴールしないと！」「だって先生とゴールしたかったんだもん！」「え！？そ、それなら行かないと！今ならまだ3位目指せるよ！行こう！」危ない…3位になれた！今日は太郎くんに振り回される1日だったなあ。

学習者6の看図作文

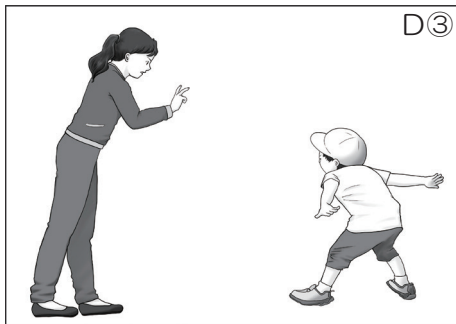
タイトル【優しさと出会い】



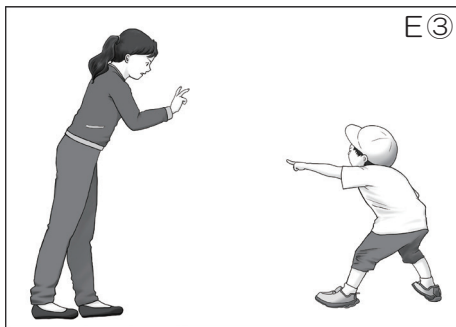
今年1年目の先生と素行の悪い生徒がいました。先生は1年目ということもあり、生徒から舐めた態度を取られ悩んでいました。自分に向いている仕事かどうか、やめようかまで考えていました。素行の悪い生徒はいつも先生を挑発ばかりしていました。

例えば、先生が2つ持ってきてと言ったバケツを1つだけ持って来て困らせたり、バケツを持ってきてくれる日はいい方ですが、掃除に参加しなかったり、勝手に帰ってしまっ

たりしていました。先生は毎回頭を抱えていました。そんなある日、体育の時間に野球をしました。



その生徒は自ら審判を教えて欲しいと言ってきました。珍しいことでとても不審に思いましたが、積極的な姿が見れたのは初めてだったため、とても喜び、試合を通して教えました。生徒は審判を、先生はアウトの数などを数えていました。試合は終わりに近づいてきました。



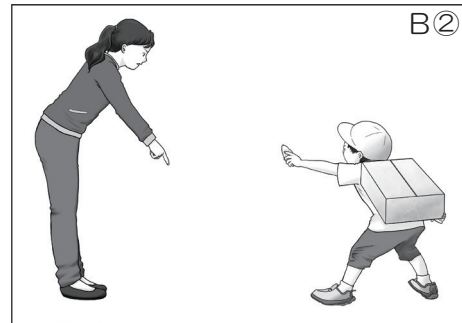
すると生徒は急に先生の方を指さしました。先生はふざけているのだと、注意を促しましたがやめる様子がありません。そして、生徒は「危ない」と叫び先生にぶつかってきました。先生は何が起きたのかさっぱり分かりませんでした。すると、近くにバットが降ってきました。バッターの子が勢いよく走り出した際に、バットをぶん投げてしまったのでした。先生は生徒に感謝の気持ちを伝えました。すると生徒は照れくさそうに、「俺はやるべきことやっただけ」と言って走っていきました。

その後、2人はとても大きく変わりました。先生は生徒の優しさにもっと頑張ろうと思えるようになり堂々とするようになり、今では生徒からも先生方からも信頼されるそんな素

敵な先生となりました。生徒の方は先生の喜んだ顔を見るために、なんでも積極的に参加するようになりました。

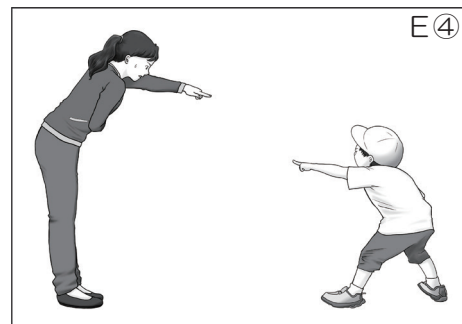
#### 学習者7の看図作文

タイトル（記載なし）



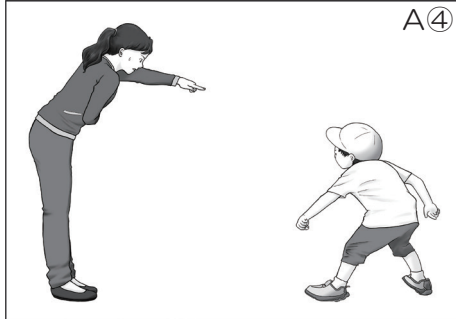
「こら！その荷物！！一体どこからとってきたの！」背中に大きなダンボール（笑）を、手には貝殻なのかスリッパなのかよく分からないものを持った少年Aが女性教諭に注意されている。「うるせえ！先生こそそんな靴で体育出来ると思ってるのか！」こいつアすげえ。幼き少年はもう反抗期を迎えているようだ。それにしても少年にしてはいい着眼点である。「ピーチクパーチクやかましい！もういいです。10点減点しますからね！」

このセンコーはいつもいつも点数を引いてくる。うんざりだ、昨日だってこっそりコーラを飲んでいたところを見つけて20点減点された。飲み物への恨みでもあるのだろうか。そんなことはどうでもいい。このピンチどう乗り切るのか。



少年はおもむろに懐から懐中時計のようなものを取り出し針を1回ほど巻き戻したようだ。少年は先生に向かって指を指し「時は動

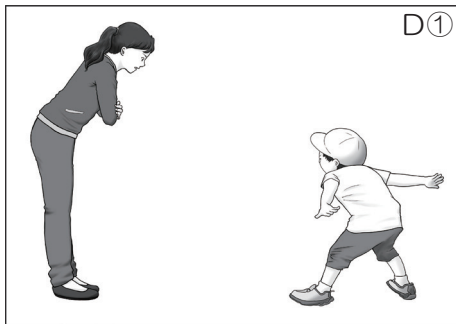
き出す」となんだかかっこよさげなセリフをいいはなった。次の瞬間女性教諭は次に起こることがはっきりと見えた。しかし、何度見ても少年に逃げられる未来ばかり。



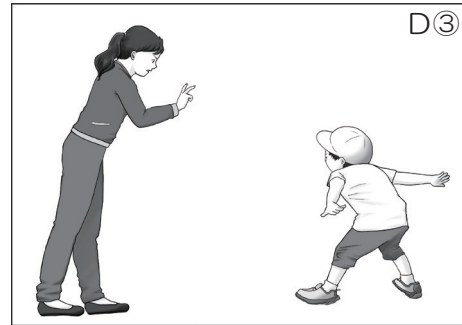
「ど、どうということなの、？」困惑する先生。「終わりのないのが終わり、」と意味深なセリフを言いながら暗闇に消えていった。追いかけてしようとした瞬間また、同じ場所に戻っていた。(冒頭に戻る)

学習者8の看図作文

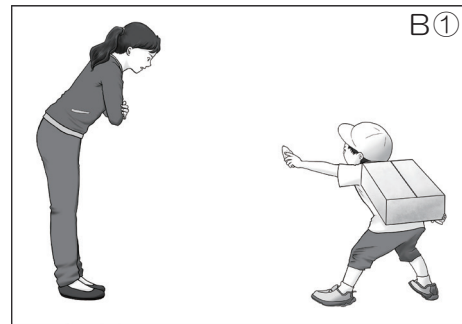
タイトル【くせがつよいんじゃー】



肌寒くなってきた日、小学校の外での体育の授業後教師と生徒がモノマネごっこをしていました。「一発で当ててやったぜ！次は俺のターン！」と生徒が挑戦的に言いました。先程、体育の授業を真面目に受けていなかったはずなのに、そんなことも忘れてたように純粋な瞳で先生を見つめてくるのでした。そんな眼差しについて「望む所よ」と先生が答えてしまいました。生徒は低姿勢で後ろに両手を広げるポーズをとりました。「分かったわ！鳥ね」「うーん、空を飛びたい人」「違ー」2～3回当てはまりそうなものを答えてみましたが、先生は分かりそうにありませんでした。



「もう二つくらいヒントを頂戴」仕方ないなと生徒はポーズを取り、つぎは声付きでモノマネをしました。「コレがあれば、取り敢えずダイジョーブ！」先生は混乱するばかりでした。これは最近のお笑い芸人のモノマネなのだろうか？それだと最近テレビを見てないから分かりそうにないなあと先生が心の中で思いながらも当てはまりそうなものを言いました。「クリームコロツケのネタ！」と答えると何だよそれと生徒に変な顔で見られた。これがジェネレーションギャップと思いながら先生は諦めかけていました。

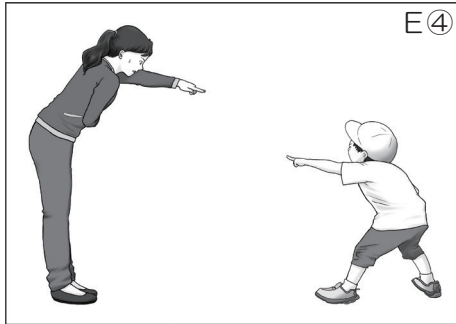


「先生は想像力にかけてるね」と若干小馬鹿にした感じでやれやれとポーズをとった。先生は少し前かがみ気味の姿勢になり、殴つたろかと教師の立場でありながら手が出そうになったが、相手は小学生、ムキになったら負けよと心の内で解決させた。最後のヒントがあるので、それを見て先生は答えを出すことにしよう決めました。すると、どこからか段ボールの箱と石を持ってきて、段ボール箱は背中に、石を左手に持ちながら、先程のネタを言いました。先生は答えが分かりませんでした。「答えを教えて」「仕方ないな、これはね希望に満ち溢れた原始人のモノマネ！」

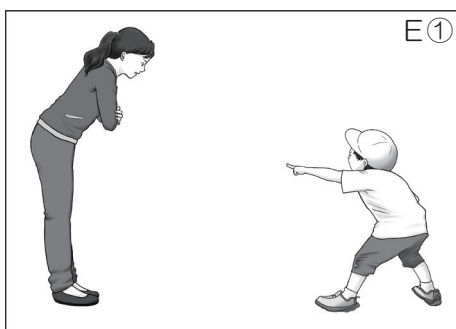
答えを聞いて先生は思いました。「くせがつよいんじゃー」

学習者9の看図作文

タイトル【幻のドジョウ】

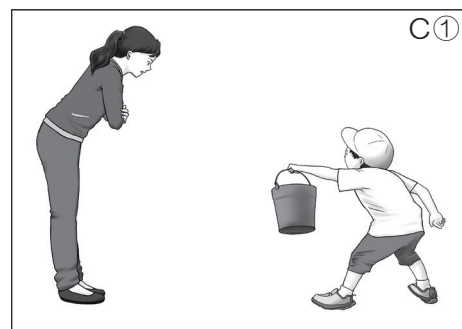


ある日少年は先生に向かって、「あっちの川に沢山ドジョウがいて、その中に金色のドジョウがいるから見てきてほしい!」と言ったところ、先生はドジョウがいるのはそっち側の川じゃなくて、あっち側の川だよ!と、言いました。少年は、「本当にいたんだ!この目を見たんだ!」と言うものの、先生は全く信じしてくれませんでした。そこで少年は、「ならもう一回見て確かめてくる!」と言い放ち、先生が指を刺した方向とは逆の川に走って向かいました。そして川の中を確認した少年は、先生のところに戻ってきて、こう言い放ちました。



「やっぱり金色のドジョウがいる!しかも2匹だ!!」と。先生は呆れて少年に、「本当にいるの?」と尋ねました。少年は「うん!ほんとにいる!」と言いました。先生がなぜこんなにも疑うのかと言うと、深い理由がありました。先生も昔から金色のドジョウを探していて、今まで1回も見ることがなかったの

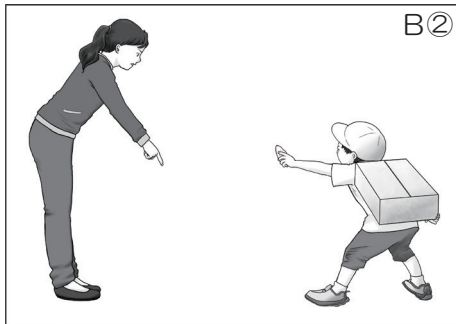
です。先生は放課後も、休みの日も友達と河川敷などを巡って、金色のドジョウを探していました。しかし、今まで1度も発見したことがない金色のドジョウを少年が見つかるなんて考えられなかったのです。しかも2匹も!先生は少年にこう言いました。「ならその金色のドジョウを取ってきてよ!」と。少年は「わかった!」と言い放ち、花に水をあげる用のバケツを手に取り、川に一目散に走っていきました。そして、少年はバケツを持って先生のところに戻ってきました。



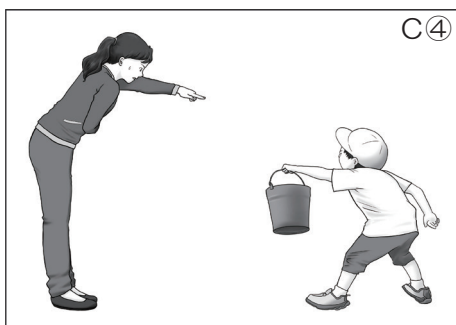
戻ってきた少年のバケツを見て、先生はびっくりしました。少年が手にしているバケツの中に沢山の金色のドジョウがいたのです。先生は驚きと感動を隠せずにいました。少年はとても興奮して、他の友達にも見せてくる!と言い、公園へ向かいました。先生は初めて金色のドジョウを見れて、とても嬉しい気持ちになり、少年も自分で取った金色のドジョウを先生に信じてもらえて、とてもハッピーな気持ちになりました。

学習者 10 の看図作文

タイトル【2人の成長】



ある日の放課後、環境係である小学三年生の太郎君とクラスの担任である花子先生の話である。太郎君はクラス1の元気っ子、花子先生は学校1のまじめ先生と言われている。放課後になり先生は太郎君と一緒に水やりをするために少し早めに行って、太郎君を待っていました。そこにバケツを持ってくるように指示していた太郎君はやってきました。しかし、太郎君の手にはバケツはなく、左手にはそこらへんで拾ったとされる石、右手には何のためかわからない段ボールを背中で抱えるように持っていました。花子先生は、少し厳しめに「バケツを持ってきてここにあるお花たちに水をあげないとダメでしょ！なんで素直に水をあげてくれないの！」と注意をしました。すると太郎君はすぐさまバケツを取りに行きました。



太郎君はバケツを持って戻ってきました。花子先生は少し安心したのも束の間、バケツの中に水が入っていませんでした。太郎君は「だって先生バケツを持ってくるように言っただけで、水を汲んできてなんか言っていないもん！」と反論しました。先生は少し焦った表

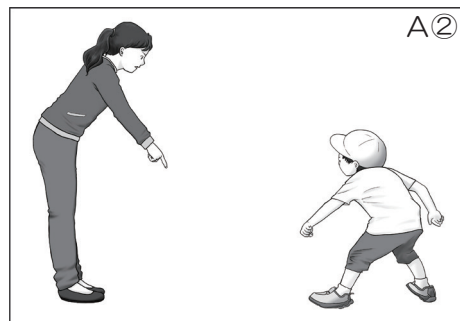
情を見せながら、「確かにそうね。じゃあ向こうの蛇口を使って、水を汲んできてくれるかしら。」と言いました。太郎君はまたすぐさまバケツを持って移動しました。



太郎君は水を満杯に汲んできて、どうだと言わんばかりのどや顔で花子先生に見せつけました。学校1まじめで、普段笑顔を見せないとされている花子先生も思わずこの様子に笑ってしまいました。そして少し真面目な表情に戻り「次からは一度でちゃんと持ってくるのよ。」と1回目に比べてとても優しく注意してくれたのであった。この一件を機に、太郎君は騒ぐときは騒ぐ、しっかりするときはしっかりするといった、メリハリをつけれる子に成長しました。花子先生も、真面目なところは変わらなかったが前とは別人なほど日常生活で笑顔を見せるような魅力的な女性になったという。めでたしめでたし。

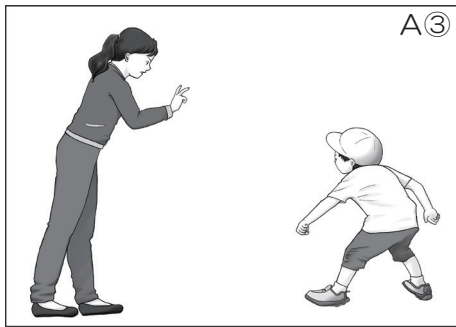
学習者 11 の看図作文

タイトル【勇敢な男の子と奇跡】

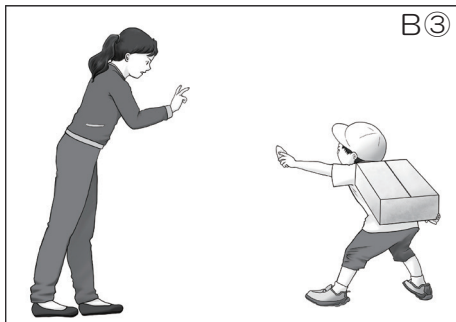


ある日のある小学校の遠足中の出来事です。お昼休憩が終わり、担任の先生が全員生徒がいるか確認しました。生徒は23人です。「21, 22。。1人いない！」先生は驚きを隠

せず慌てて辺りを見渡しました。しかし、この辺りは森の中で辺りを見渡してもどこにもいません。その時、ある女の子の生徒が「さっき Aくんがあっちに走っていきましたよー」と言いました。先生は他の生徒たちをその場で待機するよう指示し、女の子が言った方向へと走っていきました。しばらく走ると、その先には洞窟のような場所がありました。覗いてみると、急に Aくんが飛び出してきました。先生が「なにしてるの!? 帰るよ!」という Aくんは無言で涙目になっています。Aくんはいつもと違って何かを守るようにして、先生を絶対通さないようにしていました。普段ととてもおとなしい性格の Aくんがとても強気になっていました。



しばらくしても Aくんは喋りません。なにも喋らない Aくんに対して先生は「もう帰るよ。言うの 2 回目だよ」と言うと、Aくんは「先帰っていいよ、後で行くから」と後ろを気にしながら言いました。先生はその行動を見逃さず後ろを見てみました。



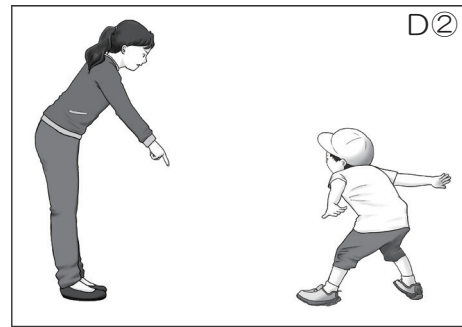
すると、すぐそばに段ボールが置いてありました。先生はそれに気づくと、Aくんは慌てて段ボールを背負い、石を持って先生に反抗しました。先生はもう時間がないので石を

奪い、段ボールの中身を見せてもらいました。するとそこには猫の赤ちゃんがいました。しかし、猫は足に怪我を負っていました。Aくんは猫の鳴き声に気づき、いなくなったのです。Aくんは泣きながら「お願いだから助けて!」と言いました。

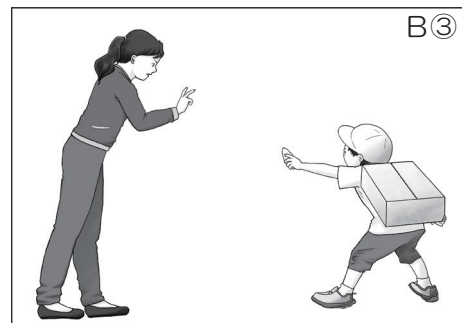
そんな危機的状況の中、先生が急に走り出してしばらくして戻ってきました。先生は応急処置用の救急箱を持ってきていたのです。さらに先生は獣医師の資格も持っていたのです! 先生は応急処置をして猫は無事に助かり、みんなで仲良く帰って行きました。

学習者 12 の看図作文

タイトル【大人の階段を昇る、のぼる君】

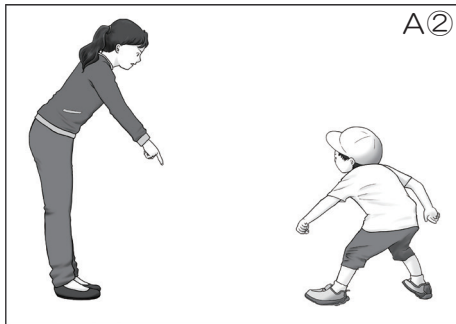


「先生ー」と全速力で先生のもとにやってきたのは、のぼる君。とてもやんちゃで元気な子です。先生のもとに全力で走っていき急に止まったのです。ごい砂ぼこりが舞って今日も先生に注意されました。のぼる君は突然両手を大きく広げ「セーフ」と言いました。先生が「なにそれ?」と尋ねました。のぼる君は野球の審判の真似だと答えました。昨日のオールスターゲームを見て、どうやら野球が好きになったようです。





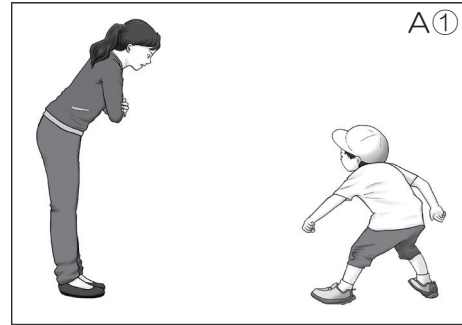
次の日、のぼる君は段ボール箱と石ころのようなものを手にして先生のもとへやってきました。今日は何を言い出すのかと思ったら、「先生、早く小学生になりたい」と言ってきました。先生は冷静に「それは分かったけど、その箱と石ころはなに？」と聞きました。すると、のぼる君はランドセルと防犯ブザーと答えました。先生は防犯ブザーをチョイスした、のぼる君に笑ってしまいました。「でも小学生になるまでは二年あるでしょ。それにもっと、大人の人のことを聞かないと小学生にはなれないよ」と伝えました。



また次の日、今日も元気にやってきたのぼる君は左手に何かを持っているようでした。先生は「のぼる君、左手に何隠してるの？」と聞くと、「虫！」元気に答えました。先生は汚いから捨てなさいと言いましたが聞かない様子です。先生は「小学生になりたいんじゃないの」というと、のぼる君はハツとして虫を捨てました。これで大人の階段を一段のぼった、のぼる君でした。

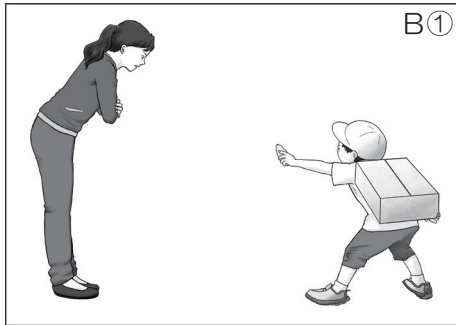
学習者 13 の看图作文

タイトル【石拾いの徹くん】

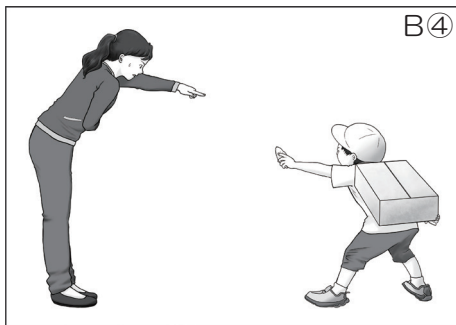


石集めが趣味の徹くんは学校帰りに毎日河原へ行って石を拾って、お気に入りを見つけてはダンボールの中に入れてコレクションをしていました。徹くんはおとなしい性格でありあまりお友達と話すことが得意ではなく、学校の教室では馴染めずにいたため、学校はサボリ気味で毎日遅刻をしたり時には休んだりを繰り返していました。サボる時のお気に入りスポットは学校に行く途中にある河原でした。河原には沢山の石ころが落ちていてまさに時間潰しには最高のスポットだったのです。この日は昼ごろまで石を段ボールに集め、そこに段ボールを置いて行くわけにはいかないの学校に石を詰めた段ボールを持って登校しました。学校に着くと校門は閉まっており開けるためには先生をインターホンから呼ばないといけません。しかし呼んでしまうと段ボールの存在がバレてしまいます。

徹くんはある計画を思いつきました。その計画というのはまずどこかに段ボールを隠し、インターホンで先生を呼んで門を開けてもらってから走って段ボールを取りに行って全速力で門を突破する作戦でした、しかしいざ実行してみるとインターホンを押すと担任のさよ先生が怒り気味に歩いてきたではありませんか。そんなことは想像しておらずしかも段ボールを隠した一連の流れも見られていたため、段ボールを取りに行くように指示されました。



しかし怒られるのが嫌な徹くんは段ボールの中で1番鋭かった石を取り出し威嚇しながら先生に挑みました。しかし先生は頭ごなしに徹くんを叱り、徹くんは話を聞くのが嫌で左から右に聞き流していました。何を言っても返事をしない徹くんにはさよ先生は少し焦り、冷静になると頭ごなしに1人の生徒を叱り続けることにかわいそうだと思ってしまい、その日は許して学校のなかに入れてあげました。



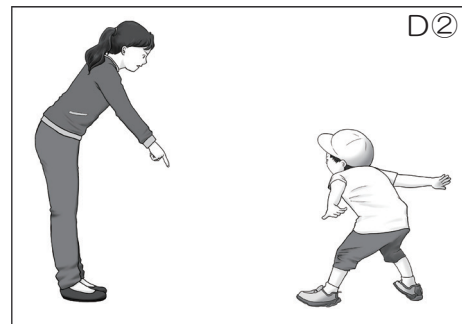
徹くんは段ボールを持って教室へ向かうと、その叱られている一連の流れを学校の中から見えていた教室のお友達たちは先生に反抗して威嚇までしていた徹くんの勇気ある行動に感心し、徹くんの弱々しく貧弱なイメージから強く勇ましいイメージに変わったのです。その日を境に、徹くんは友達ができ、学校に毎日通うことができるようになりました。

#### 学習者 14 の看图作文

##### タイトル【始めの一歩】

「位置について、よーい、ドンッ！」

太陽がジリジリと暑い。来月に控えている運動会に向けて、球小学校ではかけっこ練習が始まった。かけっこは全員参加する種目で、運動会で最大の盛り上がりを見せる紅白対抗リレーに出場するための選手を2人決めるタイム計測が来週行われる。リレーの選手になりたい生徒は多く、みんな練習に気合いが入っている。そんな中、いつまで経っても走り出さない生徒がいた。

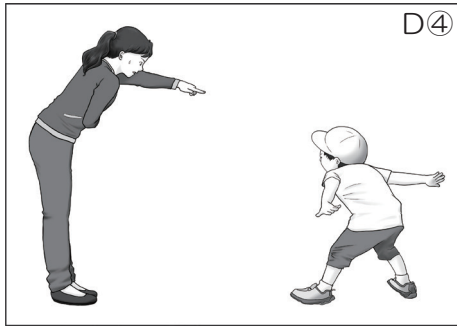


先生「ほら、みんなもう行っちゃったよ。球輔も走りなさい。」

球輔は走ることができない。走るのが大好きで足が速かった球輔。去年の運動会まで恒例のようにリレーの選手に選ばれていて、白組のチーターと呼ばれていたくらいだ。ある日の放課後。いつものようにみんなで大好きな鬼ごっこをしていたのだが、足を思いっきり捻ってしまい骨折をしてしまった。初めての怪我、手術、リハビリ。症状は重くなく、半年でなんとか歩けるようになり、球輔は走れるはずだが走ることに恐怖を抱き走ることができなくなった。

球輔「アリさんたちが列を作って歩いているんだ。踏んだら困るから走れない。」

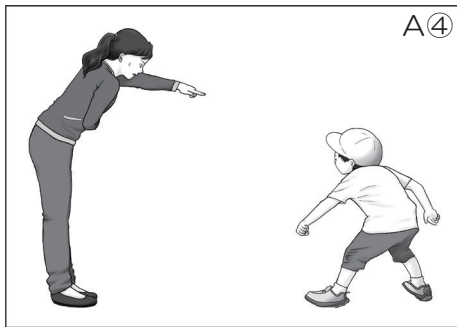
そんな嘘について意地でも走ろうとしない。



先生「じゃああっちに移動して走ろう。」  
球輔「重力が強すぎて足と地面がくっついちゃったから走れない。」

走りたくない球輔は粘り続ける。先生は球輔を抱っこしてひよいと持ち上げ地面から足を離して見せる。

先生「ほら、これで走れるでしょ。」

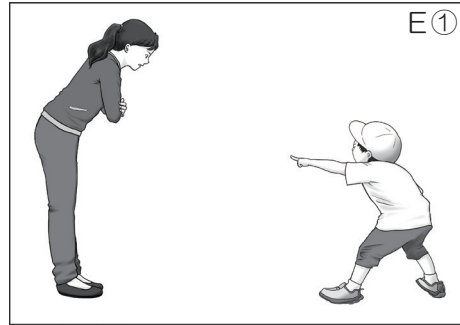


球輔「先生にジャンケンで負けたら走る。」

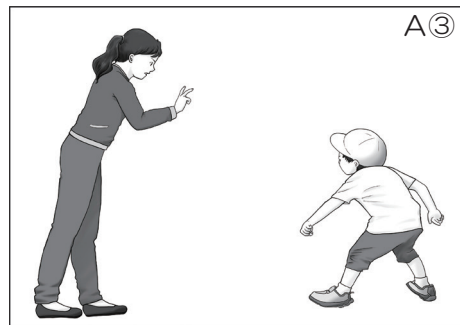
そう言って球輔は拳を握りしめ断固拒否。先生はかけっこをやめ、鬼ごっこをすることにした。大好きな鬼ごっこに球輔は目が輝いた。友達の球大と一緒に逃げようと誘われ、怖かった走ることに對して始めの一步を踏み出したのだ！走る楽しさを思い出した球輔。嫌なことでも友達と楽しみ、勇気を出して始めの一步を踏み出せば、できなかったこともできるようになるのだ。

学習者 15 の看図作文

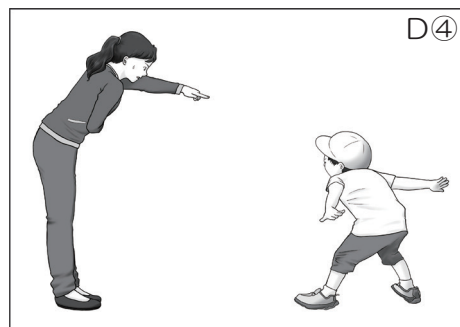
タイトル【ジャンプ!!】



「今回の体育の授業は走り幅跳びと言われる競技を行います。」この先生の声掛けで授業が始まりました。しかし、生徒の翔太君は先生の説明よりも目の前の砂場に興味深々です。翔太君は先生に話を聞くようにと軽いお叱りを受け静かになってから、先生は走り幅跳びの説明を始めました。



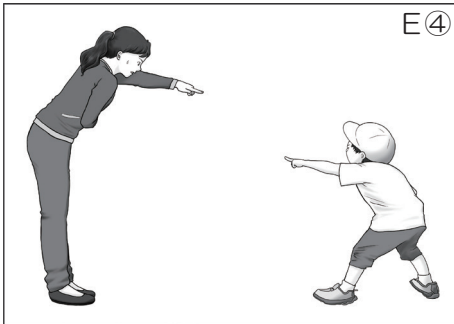
「走り幅跳びは助走をつけて、砂場の手前にある白い線でジャンプをして砂場に着地する競技です。では早速始めますが誰からやりたい？」ということで好奇心旺盛な翔太君は早速立候補し、一番最初にやることになりました。スタンディングスタートの姿勢になった翔太君に先生は「2回計測するからね。」と伝えました。



走り始めた翔太君に対して、先生は指をさして「この線でジャンプ！」と言い、その声と同時に翔太君も大きく腕を振りかぶってジャンプしました。完璧なタイミングで飛んで、飛距離もかなり伸びて無事に着地と思いましたが、足をついた瞬間バランスを崩して後ろ側に転んでしまいました。ですが記録が大幅に減少してしまったショックよりも、全身砂だらけなのが面白くなり、翔太君も周りのクラスメイトも大爆笑してしまいました。これにはいつもまじめな先生も笑ってしまい、今まで険悪だった雰囲気が一気に楽しい雰囲気に変化しました。

学習者 16 の看図作文

タイトル【Nakamura family rain leak case】



北海道札幌市にある仲睦まじい家族の中村家で起きたある事件の話である。今日は地球誕生史上、過去最大の台風が北海道の上を通過すると大きなニュースになっていた。朝から外は大量の雨がザーザーと降り続いており、道路が冠水し始めてきている。そんな中、中村家では事件が起きた。

大輔「お母さん！あっちの天井から水がポツポツと垂れてきて、大きな水溜まりができていますよ。部屋の中にプールができちゃいそうだよ！」

お母さん「あら、本当だ、雨漏りしてるじゃない。ほら、あっちにも水溜りができてるわよ。そんな呑気なこと言ってないで、急いでバケツ持ってきて受け皿にしないと！あの赤色のバケツ持ってきて頂戴、大輔！」

大輔「うん！わかった取ってくる！」

ドタドタドタドタ

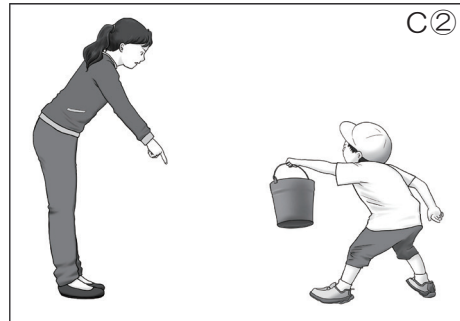
お母さん「走ったら怪我するからゆっくり行きなさいよ。」



大輔「お母さん持ってきたよ！ほらこれ、青色のバケツ！こっちの方が大きいし沢山入るかなって思って青色にしたよ。」

お母さん「お母さん赤色って言ったでしょ！その青色のバケツは大きいけど底にヒビが入ってるから水が漏れちゃうのよ。それじゃ水が溜まらないでしょ！」

大輔「本当だ、ヒビがある！昔僕が壊したんだった。赤色のバケツ持ってくる！」



大輔「次こそは赤色のバケツ持ってきたよ！」

お母さん「ありがとう、大輔。そしたらまず、ここの雨漏りが一番酷いからここに一つ置こうかな。そして、次はあそこに置こうかな。」

大輔「バケツ一つしかないから、全然足りないよ！」

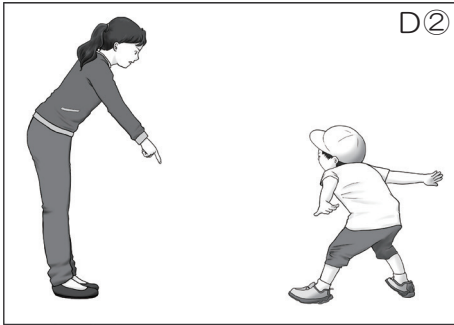
お母さん「一つしかなかったっけ！そしたら、お母さんと一緒に買いに行こうか！」

大輔「やったー！行く行く！」

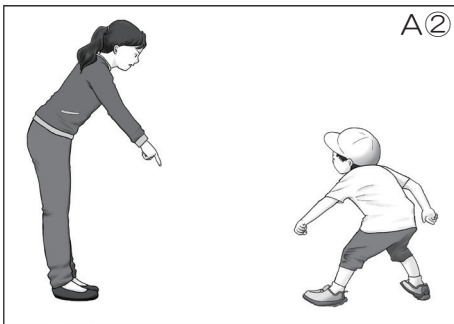
大雨の中、買い物に行きバケツを複数買って、中村家の雨漏り事件は収まりましたとさ。

学習者 17 の看図作文

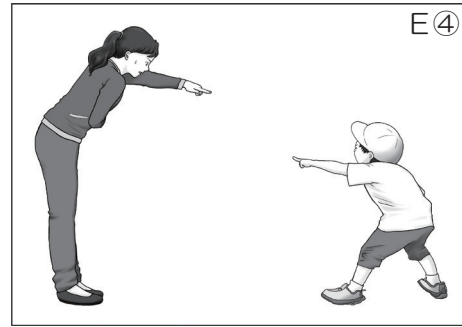
タイトル【愛すべき夢と理想と現実を】



「きいいーん」元気な男の子の声が園内に響きます。「こうた君、やめなさい！そんな走り方して怪我したらどうするの！？」新米保育士のまりは両腕を広げて飛行機のように走り回るこうた君を叱りました。「他の子達にもぶつかったら怪我させちゃうのよ？」対するこうた君は「えーだってえ、たのしーんだもん」と唇を尖らせて言い訳。「だってじゃありません！」全く反省する様子のない態度に、まりは怒ります。



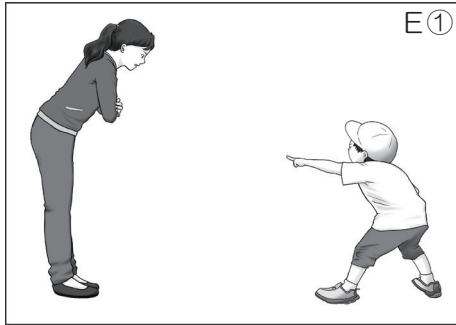
どうにか冷静に「…とりあえず腕を下ろしなさい」と伝えましたが「じゃあせんせいもやってくれなきゃだ！」と駄々を捏ねるこうた君、仕方なく腕を降ろすとこうた君は渋々腕を降ろし…途中何を思ったか勢いよくまりに向かって指を差しました。



これにまりはカッとなり「こら！人に指を差さないの！！」と激怒、しかしこうた君も負けじと「せんせいもさっきからゆびさしてるのに！！」と大声で言い返しました。2人の大声は園中に響き渡りついに園長先生まで出てきてしまいました。事情を聞いた園長先生はまりに隣の部屋で頭を冷やすように言い、大声で怯えてしまった他の園児達のケアを他の保育士に頼みました。まりは自分は何て身勝手な人間なのだろうこんな人間に保育士が務まるはずがないと泣きながら思い、退職届を出そうと考えました。その時小さなノックの音が…涙を拭って返事をするとそこにはこうた君がいました。驚くまりにこうた君は「ごめんなさいまりせんせい…」と小さな涙声で言いました。まりは「ううん、私こそごめんなさい」とこうた君の目線に合わせて言いました。ポロポロ泣きながら抱きついてくるこうた君の頭を撫でてみると先程怯えさせてしまった園児達も皆「まりせんせえ…」とまりの周りに集まってきます、顔を上げると園長先生達が静かに見守ってくれていて、まりはやっぱり私は保育士でいたいなと心から思ったのでした。

学習者 18 の看図作文

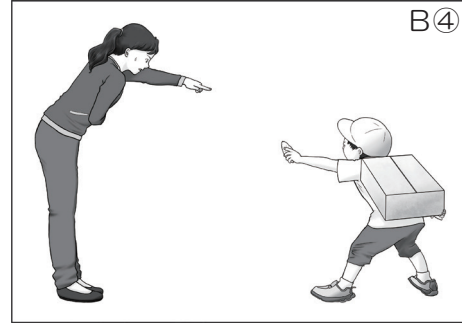
タイトル【一体何者！？】



私はこの学校の教員だ…。そして生徒たちを見守る存在。「先生！！あれ何！！」一人の生徒が指をさした。名前は高橋久人。この生徒はクラスの中でも少し変わっていて、幽霊が見えると自称しておりよく何も無い場所に向かってしゃべっていたり、今回のように指をさしているらしい。しかし、私は知っている。彼はいたずらをしているだけなのだ。「こらっ久人くん！いたずらするのはやめなさい！」「だって先生あそこにいるんだよ」まだ彼は一生懸命に指をさしている。「そんなことしないで教室清掃に戻りなさい」



ガチャンツ。ババツ。久人は急に自分のそばにあったバケツを持ち上げた。恐らく掃除をやらせようとしているのだろう。「自分でやらなきゃ意味がないでしょう」「だって、、、」「早く掃除に、、、」タツタツタ。久人が走っていく。掃除をしに戻っていったのだろう。最後までしっかり話を聞いてほしいんだけど。

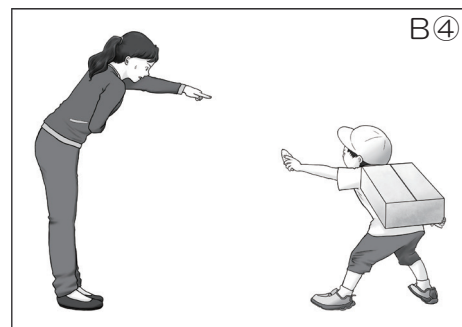


トコトコトコ。バツ。「っ！？ちょっと久人君何やってるの！！」彼は廊下に置いてある、給食ワゴンから持ってきたであろう箱を背中に背負っている。そして彼の手にはその箱から出したコッペパンが握られている。「いい加減になさい！」「でも、、、」「早くそれを戻ってきて、掃除に戻りなさい！」さすがに度が過ぎていたため久しぶりに真剣に怒った。トボトボトボ。さすがに懲りたのだろう。うなだれながらワゴンに箱を戻しに行っている。「はあ。全く困ったものね。まさか私が見えてるなんて」私はこの学校の教員だった。そして生徒たちを見守る存在。

学習者 19 の看図作文

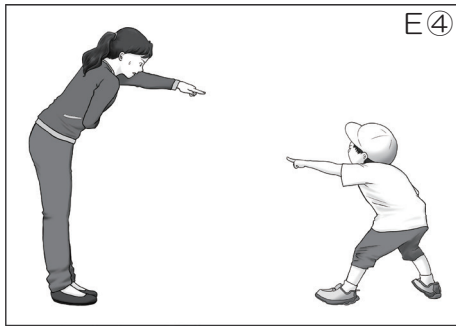
タイトル【お手伝い大作戦】

これはお母さんにとってのある朝の三兄弟との戦いです。



ある日の朝、お母さんは1番下の弟のタケシに「あそこにあるバケツを取ってきて」とお願いをしました。すると、元気よく「お母さんちょっと待ってて！」という返事がありました。お母さんはちゃんと持ってきてくれると期待をしながら待っていました。するとタケシが持ってきたのは、、、「見てお母さん！

昨日見つけたセミの抜け殻だよこの箱に昨日から入れて取っておいたんだ」と学校の帰り道に拾ったセミの抜け殻を持ってきました。一方で、虫が大嫌いなお母さんは「そんなもの持ってこないでよ!」とかんかんに怒りました。タケシはちよっぴりしょんぼりしながら部屋に戻りました。



次にお母さんは真ん中のケンタに頼むことにしました。頼まれたケンタは悪戯大好き少年。その為、お母さんが「バケツを取ってきて」と言うと、真似するように「バケツを取ってきて」と悪戯顔でおうむ返しをしました。当たり前のように怒られました。そしてケンタは納得いかないという顔で部屋に戻っていききました。

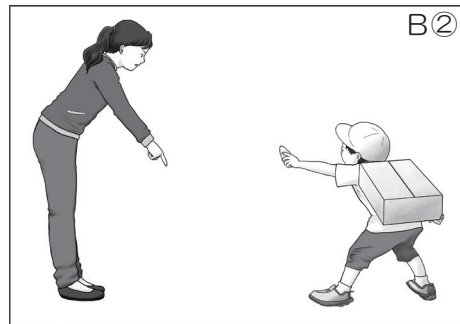


呆れたお母さんは諦めて一番上のカンタに頼みました。カンタは一つ返事で、すぐバケツを取ってきてくれました。カンタは「お兄ちゃん偉いね、ありがとう!」とお母さんに言われました。その様子を見ていたタケシとケンタ。褒めてもらうお兄ちゃんのことを見た弟2人は次の日から沢山お手伝いをするようになりました。実はカンタとお母さんが仕組んだ「お手伝い大作戦」だとは知らずにね。

学習者 20 の看图作文

タイトル【はじめての友達】

これはとある小学校のお話です。4月に小学校に入学したばかりのゆうたくんはよく言えばやんちゃな子ですが、悪く言えばとても凶暴な子でした。気に入らないことがあるとクラスのお友達を殴ったり掴みかかったりしてしまうため、二学期になってもクラスでは浮いた存在です。



そんなゆうたくんをいつも叱るのは担任のまり先生。まり先生は体を動かすのが大好きなジャージがトレードマークの先生です。今日はお昼休みの時間をすぎてもいつまでも外で遊ぶゆうたくんを呼びに来たようです。

「ゆうたくん! チャイムが鳴ったら教室で授業を受けようね」

「ううううう、い————や————だ————! ! ! !」

自分の思い通りにならず、ゆうたくんはまた駄々をこねてしまいました。ゆうたくんは足元にあった石を思い切りまり先生に投げました。まり先生は間一髪で避けましたがゆうたくんを見るとまた石を構えていました。

「やめなさい!」

先生の怒った声にゆうたくんは怖くて固まってしまいました。ですが、しっかり石は構えています。

「ゆうたくん。さっき投げた石が先生に投げたらどうなってたかな?」

ゆうたくんは石を構えたままです。

「怪我をしてとっても痛い思いをしてたかもしれないし、もし目に当たったら先生一生

目が見えなくなってたかもしれないよ。」

ゆうたくんはゾッとしました。ゆうたくんは今まで手をあげた相手がどんな思いをしているのか想像したことがなかったのです。

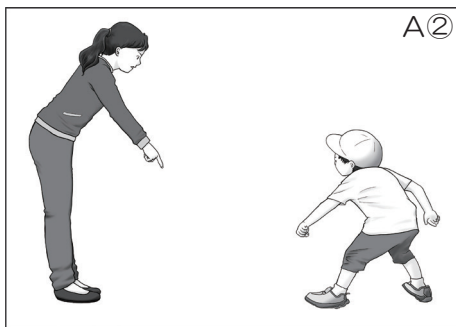
「だからゆうたくん、その石は地面に置きなさい。」

ゆうたくんはやっと落ち着いて石を地面にポイッと捨てました。するとまり先生は優しくゆうたくんを抱きしめてくれました。

「ゆうたくんよく出来たね。人を傷つける事はいけない事だから、もう絶対にしないでね。」

「……うん」

お家でも暴れてしまうゆうたくんは暴れてもお母さんは何も言いませんが、ゆうたくんをお家に置いてすぐに出ていってしまう人でした。こんな風に抱きしめてくれる人はゆうたくんにとっては初めてです。



それから1ヶ月後、まだまだゆうたくんはクラスに馴染めていません。今日もゆうたくんはクラスメイトと喧嘩してしまったみたいです。ついつい手が出そうになった時。

「ゆうたくん！」

そう、まり先生の声です。

ハッとしたゆうたくんは上げた拳を下ろします。ゆうたくんは、少しずつ自制がきくようになってきました。

「たろうくん、ごめんなさい。」

ダメなことをしたら謝ることができるまで成長しています。

「ふんっ」

まだまだクラスメイトには許して貰えないことも多いですが、少しずつトラブルも減っ

てきているようです。



それからしばらくしたあと、校外学習でみんなでさつまいも掘りに出かけました。みんなはお芋掘りに大興奮。夢中になってさつまいもを収穫しています。そんなとき、ゆうたくんがまり先生を見つけます。なんだかまり先生、顔色が悪くとっても具合が悪いようです。今にも吐きそうな顔のまり先生にゆうたくんは急いでバケツを持っていきます。バケツを持って走るゆうたくんを隣のクラスの先生が何事かと追いかけてきます。ですが足の速いゆうたくん。ぐんぐん差をつけます。

「まり先生！バケツ持ってきたからここにゲーゲーできるよ！」

「ありがとうゆうたくん。病気がうつっちゃうから離れてなさい。」

やっと追いついた隣のクラスの先生は体調の悪そうなまり先生にびつくり。すぐにほかの先生を呼んでまり先生の看病の準備をします。そんな様子をクラスのお友達は見ていたようです。

「ゆうたくんすごいね！」

「ゆうたくんかっこいい！」

いつも褒められることのないゆうたくんはちょっぴり照れています。

「ゆうたくん！一緒に焼いたおいも食べよう！」

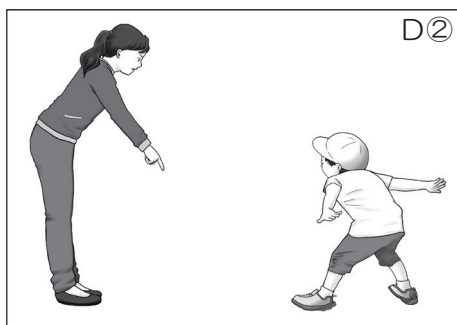
いつもひとりぼっちだったゆうたくんは初めて誘われました。沢山のお友達に囲まれたゆうたくん。今までゆうたくんが怖かったけど、みんな本当は優しいゆうたくんを見てお友達になりたいと思ったようです。



その日からゆうたくんは沢山のお友達に囲まれるようになりました。まり先生がお休みから明けて学校に戻ってくる頃には喧嘩もせず楽しく遊ぶゆうたくんの姿がみられたそう。おしまい。

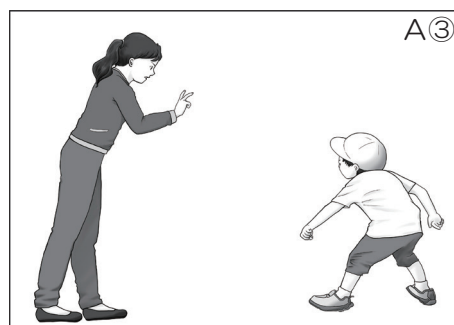
学習者 21 の看図作文

タイトル【世界で1番の魔法使い】

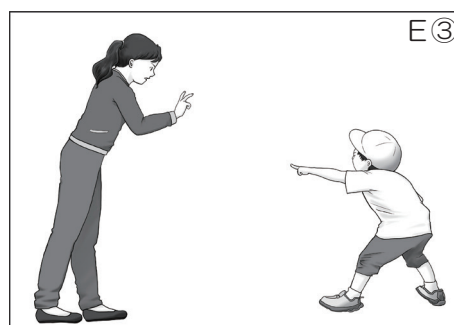


この世界では色々な主属の魔法使いが存在する。生まれた時に光る色で属性が決まるのだ。例えば水色に輝けば水属性、赤色は火属性である。ところが僕が生まれた時に光った色は黒。黒の属性は存在しない。無属性だ。魔法が使えない魔法使いなんて僕は世界で1番かっこわるい魔法使いだ。だから僕は魔法なんか興味無い。そう思いながらも僕は魔法小学校に入学した。授業は魔法を応用するようなものばかりで生まれた時から魔法が使えるみんなにはすっかり置いていかれた。それを知り、心配した両親が家庭教師を雇った。学校から帰ると家庭教師が出迎えてくれた。「おかえり！今日からよろしくね。まずは大きな水の塊をここにイメージしてみて」。早速水魔法の基本から始まった。言われた通りに僕は目閉じて水の塊をイメージしてみた。「できてるじゃない！」目を開けると大きな水の塊が浮いていた。驚いて声も出ない。「水属性なのね！」と。きっと水属性ではない。「僕、生まれた時に黒く光ってたから無属性だと思ってました」。正直に話すと先生は目を丸くして「黒！？」と声をあげた。どうやら黒く光る種族は全ての属性を合わせ持つと言われてい

らしいが、1000年もの間黒く輝く子どもが産まれてこなかったことから伝説となっらしい。



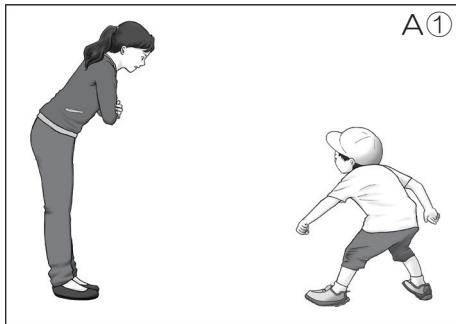
先生は動揺しながらも「じ、じゃあ2つ目の火魔法も同じようにイメージしてみて」。言われた通りに僕は火をイメージする。「それを遠くにうちはなつ感じで…」うち放つイメージをした瞬間、「きゃああ！」目を開けると火が庭の木に燃え移っていた。



咄嗟に僕は水魔法をうちはなち、消火した。2種類の魔法を使ったこと、咄嗟に応用魔法を使ったこと、一瞬火事がおきていたことに先生も両親も僕も処理しきれずに啞然としていた。無属性だと思っていたのがとんでもない才能の持ち主だった。きっと僕はどんな魔法でも使える世界で1番かっこいい魔法使いになる。

学習者 22 の看図作文

タイトル【しゅんくんが選んだもの】



「どうして持って来れなかったの？」

お母さんは強めに言った。しゅんくんは今、公園でなんでもいいからお母さんに渡す遊びをしている。おもちゃを買いに行った時にしゅんくんがどれがいいか決められなくて、全部欲しいと言っていたことにお母さんは手を焼いた。選ぶという力を身につけて欲しくて公園で遊びがてら練習しているようだ。お母さんにしゅんくんは言った。

「なんでもいいってどうすればいいの？」

お母さんは少し考えることにした。



「じゃあ、二つ持ってきてみようか。」

今度は少し優しくに言ってみた。おもちゃを買った時も「どれかひとつね」と言ったら意外とすぐを選んでいった。もしかしたら数を決めてからだといいのかも思った。そう考えているところに

「はい！持ってきたよ！」

と元気よくしゅんくんが来た。持ってきたのは水入りのバケツだった。

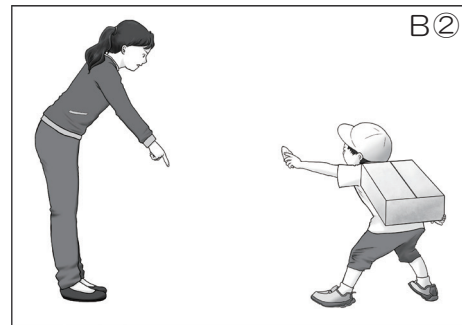
「あれ？二つ持ってきてねって言ったんだよ？」

「バケツと水で二つだよ！」

お母さんは少し驚いた。水を入れて二つにするなんて発想がなかったからだ。

それならばもうひとつだけ。

「今度は石と他になんでもいいから一つ持ってきて。」



「はい！」

しゅんくんは石とダンボールを持ってきた。お母さんは興味津々になり「そのダンボール地面において開けてくれる？」と中身を見ることにした。その中身は空っぽだった。

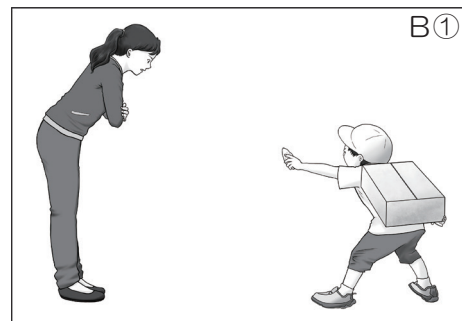
「中には何も無かったの？」と聞くと「ううん、一つだから全部出してきたよ！」

どうやらお母さんが心配しすぎただけのようだ。ちゃんと選ぶことが出来ていた。安心して帰ることにした。

そういえば、元々ダンボールには何が入っていたのだろうか？それはしゅんくんしか知らない。

学習者 23 の看図作文

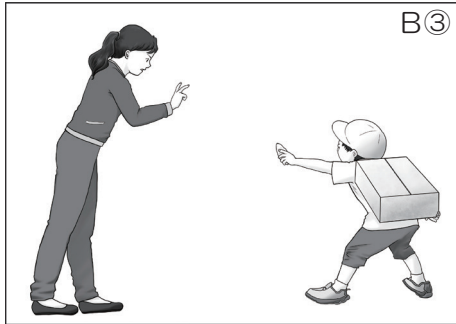
タイトル【ジャガイモバトル】



これは、母と息子のジャガイモバトルである。

先日祖母の家に行き、沢山の芋掘りを頑張ったしょう君。暑かったけどジャガイモが大好

きなしょう君は、パパと一緒にポテトチップスを作るために汗を拭きながら頑張った。ママは暑いのが苦手だから、芋掘りには行かなかった。それがしょう君にとって気に入らなかった。

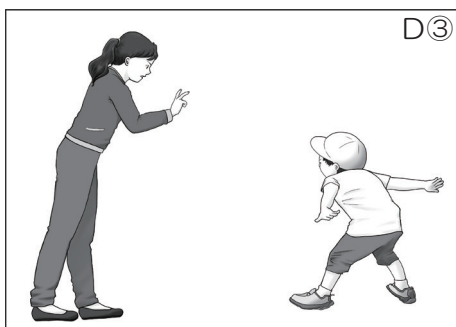


芋は沢山あり、少しずつパパと一緒にポテトチップスを作った。味はスーパーで買うより美味しかった。残り少なくなった頃、ママから残りのジャガイモが欲しいと言われバトルが起こる。

ママ「今日カレー作りたいのよ。ジャガイモ買いに行ったけど高くて…。しょう君のジャガイモ残っていたからママ買ってこなかったのよ。今すぐ使いたいのよ。」

しょう君「嫌だよ！なんで渡さないでダメなんだよ！僕が頑張って掘ったんだよ！暑いのに頑張ったんだよ！」

ママ「それはわかってる…2個でいいから頂戴。2個！それならいいでしょ。たったの2個よ。まだ10個ぐらいあるじゃない！」



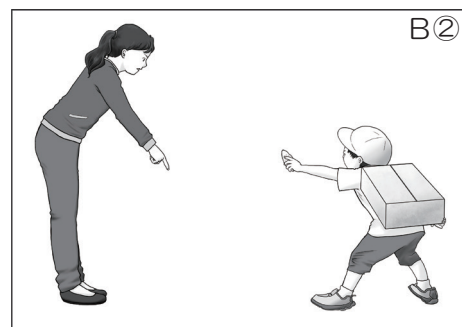
しょう君「ママ、しつこいよ！箱もない！ジャガイモもない！なーんにも持ってないよ～！僕はママからジャガイモを守るんだ！僕とパパで沢山のポテトチップスを作るって、ずっとずっと前から決めてたんだよ！だからママ

には渡さない！！」

小さい時からしょう君は、じいじとばあばの作るジャガイモが大好きだった。甘みがあり、どんな料理にも良く合う甘さだからだ。ママも小さな頃このジャガイモで作るポテトチップスが大好きだった。そんな子供の頃を懐かしむママは、いつしか諦めてスーパーにジャガイモを買いに行った。

#### 学習者 24 の看图作文

タイトル（記載なし）



さくら小学校の1年2組には、ケンジ君という男の子がいます。破天荒な行いからか、クラスの中では少し浮いてしまっています。担任のミホ子先生も、彼の行いには手を焼く毎日です。

「ブーン！！シャキーン！！鬼退治マン参上！」

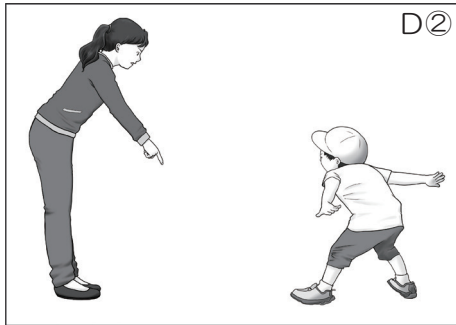
彼はいつも、鬼退治マンというアニメに出てくる、正義のヒーローになりきっています。

「悪い奴らはどこだあ！」

今日も鬼退治マンになりきるべく、段ボールを背負い、石を持ちながら校庭を走り回るケンジ君を見て、ミホ子先生が

「ケンジ君、石を持ったまま走り回ると危ないわ。置いてください。」

と注意します。そうすると、ケンジ君は恥ずかしそうに地面に石を置き、小さな声でごめんなさいと言いました。ケンジ君はいつもこうなのです。破天荒なわりに、あっさり引き下がるし、素直に謝ります。何か理由でもあるのでしょうか。



その日の放課後、ミホ子先生はケンジ君にそっと尋ねました。

「ねえケンジ君。どうしてケンジ君はいつも、鬼退治マンになりきっているの。」

すると、ケンジ君は恥ずかしそうに言いました。

「鬼退治マンは、みんなの人気者でしょう。僕も鬼退治マンみたいに、悪い奴らを倒して、2組のみんなと仲良くなるんだ。」

なるほど。ケンジ君は、クラスのみんなと仲良くしたくて、それで鬼退治マンになりきっていたのか。鬼退治マンになるのではなく、みんなと仲良くなることが目標だったから、石を置きなさいと言われてすぐ置くし、すぐに謝っていたのかと、ミホ子先生は気が付きました。そして、ミホ子先生の頭に、一つの考えが浮かびました。

「ケンジ君。先生、いいこと思いついたわ。先生と一緒に、みんなと仲良くするための修行をしましょ！」

ミホ子先生は力強く立ち上がり、ケンジ君に言いました。キョトンとした顔でいるケンジ君を見て、ミホ子先生が話を続けます。

「修行よ、修行。みんなと仲良くなるために、色々なことをやってみるの。鬼退治マンも、鬼を倒せるようになるために、修行をしていたでしょう？」

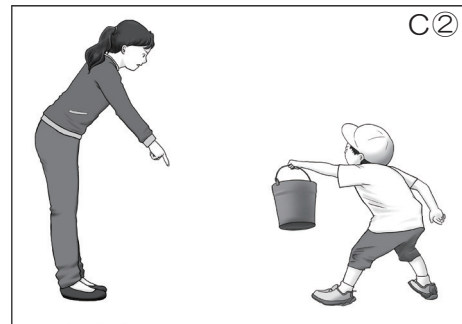
その言葉を聞き、ケンジ君は目を輝かせて言いました。

「修行したら、ぼくもみんなと仲良くできるかな。」

「ええ、きっとできるわ。明日から、先生と

一緒に修行よ！」

次の日から、ケンジ君と先生の修行の日々が始まりました。



「ケンジ君、今日は拭き掃除の日ね！拭き掃除に必要なものは？」

「水の入ったバケツです！お水、汲んできます！」

昨日まで破天荒だったケンジ君が、今日は自分の頭で何をすべきか考えて行動するようになって、クラスみんなはびっくり。みんな、ケンジ君を見直したことでしよう。

ミホ子先生とケンジ君の修行は、明日も続きます。みんなと仲良くなるためには、鬼退治マンのようになるのではなく、自分が今何をすべきなのかを見極めることが重要であるということに気が付く、その日まで。

#### 学習者 25 の看図作文

##### タイトル【変わらない笑顔】

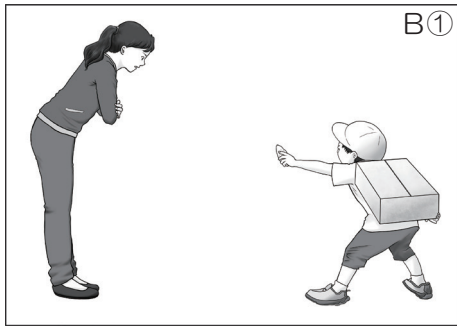
私は小学校教諭歴 20 年の教師である。今日は元生徒が会いに来てくれている。彼は成長していた。

「あの頃の僕のことまだ覚えていますか？」

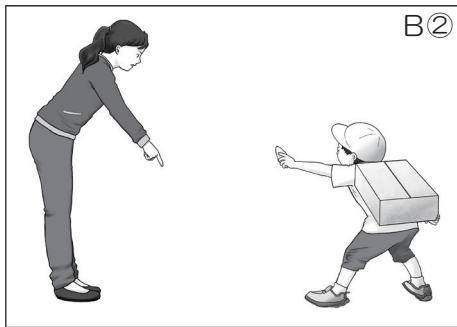
「忘れる訳ないでしょ！あんな問題児！」

新米の私は、ひたむきに仕事をしてきた。けれども、1 人頭を抱える生徒がいた。ある日、昼休み中に「ちょっとあの子何とかしてよ」と先輩の教師に言われた。あの子誰なのかすぐわかった。問題を起こすあの子だと。状況を教えてもらうよりあの子の元に向かった方が早いと思い、立ち上がった。するとその子は背中にダンボールを背負い、左手に先が

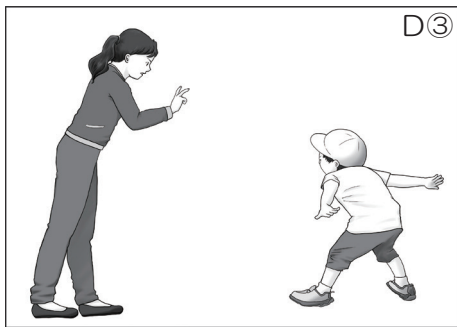
尖っている石を持っている。



真正面に立って体を前に倒し、腕を組んで威圧的に「なにしてるの?」と聞くと「でたな。一本縛り女!」と返ってきた。その子は物事を自己中心的に捉えている発言を繰り返しながら答えた。要約すると、カッコいい石探しの後に、職員室の前に置いてあったダンボールを自分のものにしたとのことだ。



まずは「ダンボールは名前が書いてなくてもあなたのものではないのだから、床に置きなさい」と床を指差した。未だに石をこちらに向けているのを見て「石も床に置きなさい」と付け加えた。



今日はあっさりダンボールと石を置いた。しかし、ダンボールを背負っているような姿勢を保ち、両手を広げている。

「何その姿勢、普通にしなさい。」

「これが俺の普通だ。」

「あと2秒待つ。気をつけの姿勢にしなさい。」と指を2本立てた。

それから、その子には手を焼いた。どんな大人になるのか心配だったが、いらない心配だった。なぜなら目の前にいる元生徒がその問題児なのだから。こんなに好印象な青年に育っているなんて信じられなかった。彼は「先生には感謝しています。あの頃の僕に真剣に向き合ってくれて、嬉しかったですよ。」と真っ直ぐに伝えてきた。その言葉に目頭が熱くなったがなんとか堪えた。その姿を見て彼はあの頃と変わらない笑顔をむけてきた。

いかがだったでしょうか。次はどの絵図セットで、どんな物語が出てくるんだろう?と楽しみにしながら読んでいただけたのではないだろうか。鹿内(編著 2014)は、作文指導において『『面白さ』は求めてはいけない(p.27)』としながらも「書いた作文が面白くなければ、作文を書く人のモチベーションも下がってくる」と述べている(同上, p.27)。上に紹介した作文は、学生たちが十分なモチベーションをもって(つまり主体的に)書いた「面白い」作文になっている。「教育心理学」授業の目標は、「作文指導」ではなく「主体性」「創造性」を発揮して表現できるようになることである。上掲25編の作文はこの目標を十分に達成していると思われる。

「看図アプローチ」の授業をしたり、「看図作文」を書いたりするのは、「主体性」「創造性」を引き出すための手段=ツールなのである。そこで最後に最も「主体性」「創造性」を発揮して書かれた作文を紹介する。作文は2800字を超える大作である。また、感想もあわせて紹介する。

学習者26の看図作文

タイトル【紋所…?】

これは日本のどこにでもいる、ある小学1年生の男の子のお話です。

小学1年生になって初めての夏休みを迎えた太郎くんは、夏休み初日から暇を持て余し

ていました。「なんか楽しいことないかなあ…」と。

そんなある日、太郎くんは1人で山に虫とりに網を持って出かけました。虫を取って遊び回った太郎くんは疲れて切り株に腰をかけて休憩しました。すると…、何やら遠くの林の中で光る地面を発見しました。「ん…あれ、なんだろう…」気になった太郎くんは林の中に入っていました。

光る場所に着いた太郎くんは、虫とり網と逆の先の方を使い地面を掘ってみました。掘り続けて少ししてから何かに先が触れるのを感じた太郎くんはそこから手で光るものを取りました。手に持つと、さっきまで輝いていたものは光を失い泥まみれの石のようなものが出てきました。とりあえず、家に持ち帰ることにしました。

家に帰ってから月日は経ちすっかり石の存在を忘れてしまった太郎くん。そんなある日、それは夏休みの終わりのこと。泥まみれの石の存在を思い出した太郎くんは、石を裏庭にある水場に持って行きました。そして、ゆっくりと水をかけて洗い流すと…、何やら変な模様の付いたものが浮かび上がってきました。模様が何か気になった太郎くんは調べてみることにしました。

夏休みが終わって学校が始まったある日のこと。中休み昼休みは外で走り回ることが好きな太郎くんでした。しかし、模様の正体を知りたくて図書室に籠る毎日になっていました。周りの友達は「気でも狂ったか？」と不思議に思っていました。声のかけられないオーラにとどまるしかありませんでした。

そんなある日、それは突然でした。そう！ついに模様の正体を知ることになりました。歴史の世界コーナーを読み始めた太郎くんは、「紋所」というものを知りました。それがどう見ても、あの石にそっくりなのです。「これだ！…やっと見つけたぞ！」喜びました。少し落ち着いて、文章を読んでもみると「昔の武

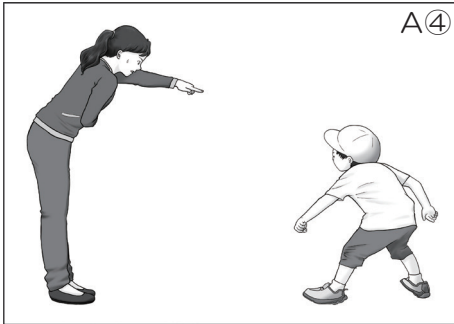
士たちが使っていた家の紋章」だと知りました。そこには、水戸黄門という徳川家のお話も付いており読んでみました。「この紋所が目に入らぬか！！と見せると皆んな言うことを聞いて静かになる…」そこで太郎くんは試してみたい気持ちが出てきました。「これを使って皆んなに効果あるのかな…」興味本意になった太郎くんは試すことにしました。

放課後、公園で友達が集まって皆んなで鬼ごっこをすることになりました。じゃんけんで負けてしまった太郎くん。鬼をやりたいくない太郎くんは「俺、鬼はやりたいくないよお～」と言いましたが「じゃんけんで負けたからダメだよ！」と皆んなに言われてしまいました。そこであの石を思い出しました。「よし、あれ使ってみよ…」石を取り出して「この紋所が目に入らぬか！！僕は鬼なんかやりたくない！！」と叫んだ瞬間、皆んなは急に整列して「その通りです！鬼なんかしないでいいです！」と皆んなが言い出しました。太郎くんは一瞬ビックリしましたが「どうやら本物だ…」と思いつつも「これは使えるぞ…」とニヤニヤしていました。それからと言うもの、色々な場面でやりたくないこと、欲しいものなど自分の言う通りに物事が進んでいました。

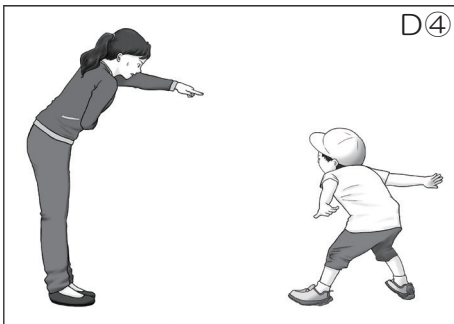
そんなある日、面白い話を耳にした太郎くん。クラスの皆んなの話によると担任の先生が大切にしているとされる箱があることを知りました。中身がどうしても知りたくなった太郎くんはある行動に出ました。そう、箱を盗んで中身を見ようとしたのです…。今の彼には、あの石がある為、怖いものなど無いのです。

放課後、皆んな居なくなり静かになった校舎に隠れて残った太郎くん。その箱は職員室の先生の机の上にあると知っていました。ゆっくりと歩き出し、職員室に向かった太郎くん。職員室に入り、担任の先生の机に向かうと、その箱は確かにありました。心の中で「やったー！見つけたぞ！」ニヤつきながら職員室

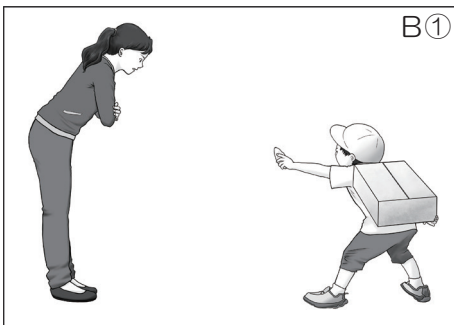
を出ようとした時、「なにしてるの!？」聞き覚えのある声が太郎くんの足を止めました。そう、担任の先生でした…。一瞬ビクッリしましたが、石の存在があるので気も大きい太郎くんは反抗し始めました。



先生は、「ここで何してるの!？その箱、どうしたの?」と指をさして怒りました。先生もまさか生徒が居るとは思わず焦りの気持ちから汗が滴り落ちました。太郎くんは「なんでもないよ!俺の物だい!」と反抗しました。



先生は「いいから早く返しなさい!」とまた強い口調で箱を指さして言いました。しかし、太郎くんは「絶対にやだ!僕のだ!」と手を広げて箱を渡そうとはしませんでした。



そして、ついに太郎くんは、いつもの様にあの、紋所の石をポケットから出して、言いました。「この紋所が目に入らぬか!!この箱

は僕のだい!」と叫びました。いつものように言うことを聞いてくれると思った太郎くんは叫び終わった後にニヤついていました。しかし、どうでしょう…。先生は全く変わらない姿で「何してるの??そんな石ころを学校に持ってきて何してるの。」と腕組みをしてさらに怒ってきたではありませんか。何度もそのあと石を見せて叫びましたが一向に効果がありません。すると、石が急にあの林で見つけた時と同じ光を放ち出しました。光と共に石はたちまち消えてしまいました。

少ししてからさっきの光が上から降り注ぎ、先生と太郎くんの間に白い髭をたくわえているウサギのおじいさんが立っていました。すると、ウサギのおじいさんはなんと日本語で話し出しました。

「[主体的]に、考えなくなったからじゃ…。」その一言を言って、また光と共に消えていきました。「主体的…?」太郎くんは意味が分からず開いた口が閉じません。すると、先生が「自分で考えるという意味よ」と言いました。また先生は続けて言いました。「その石を使って太郎くんは自分で考えて何かしようとか、少なくなったんじゃないかな?」と。太郎くんは、考えました。「この石が有れば…。なんでも出来るし何も考えなくても、全て上手くいった…」先生は再び口を開き「自分で考えないことが続いたから石が消えたのかもね」と一言、言いました。すると、太郎くんは急に泣き出して、座り込みました。「先生、ごめんなさい…。箱も返すし、自分で考えてこれから頑張るから…ごめんなさい…」と必死に泣きながら謝りました。先生は「大丈夫よ。顔を上げて!箱は何もいいのよ、箱には来週皆んなに配る為のプリントが入ってるだけだからね!」と半分笑いながら言いました。再び「けど、なんか太郎くんの為になったんじゃないかな?」と言いました。さらに続けて「自分で考えるって大切だよ!それにあの石とあのウサギのおじいさんが気づかせてくれたの

かもね。」と続けて話しました。

それから月日はたちウサギも石ころの話も先生と太郎くんとの秘密となりました。

そんな出来事があってから、太郎くんは、自分でチャレンジして、他の人が考えないことを考えてみる！など[主体的]に考える様になりました。

めでたしめでたし！

#### 学習者 26 の感想

最後なので、暴れました笑！（何字書いたかは分かりませんが…笑！）

作品について、今回のこの話は、絵図にたどり着くまでが長いですが、学んだことを入れて話を作りたいと思っていました。主体的な学び！！ウサギのおじいさんも隠れ出演…笑！！となっています！。主体的な学びを石が気づかせてくれているのです。本来教育には、「主体的・対話的で深い学び」が必要と石田先生は1年の教育学からずっとおっしゃっていました。このストーリーの担任の先生も太郎くんも改めて気づくそんなストーリーとなっています！

最後に、1年の頃から今まで教育学、教育心理学と教えて頂きありがとうございました！！新しい講義の形を体験出来て大変嬉しく思っております！

前回の、きゆうちゃんの物語では先生の編集のご協力もあっていい作品を作ることが出来ました。また、何回もお褒めのお言葉を頂き、嬉しく思いました。この学びを生活の中に！リハビリに！活かして行きます！本当にありがとうございました！！

学習者 26 は1年次の「教育学」授業とも関連づけたレポートを提出してくれた。学習者 26 は「他の人が考えないことを考える」という目標を「教育心理学」授業開始時から繰り返しレポートに書いていた。今回の看図作文は、その自己目標を反映した作品になっている。

#### V. 考察

創造性（独自性）の高さをはかる指標として、高橋（編著 2002）が参考になる。この『創造力事典』によれば、「ユニークさをみるもので、予備テストの結果から出現頻度が5%以上のアイデアは0点、5%未満1%以上を1点、1%未満を2点として得点を与える（高橋編著 2002, p.52)」。つまり、ユニークな作文（創造性・独自性が高い作文）は通常5%未満しか出現しないということである。クラス全体から1~5%程度ユニークな作文（創造性・独自性が高い作文）が産出されればよいほうなのである。本稿では26例の看図作文を紹介したが、履修者全員74名から計算すると、約35.1%の創造性（独自性）豊かな作文が産出されたことになる。

また、26例中4例が今年度初めて筆者の授業を履修した学生の作文である。初履修者14名から計算すると約28.5%になる。作文を選出するとき筆者はあくまで内容を読んでリストアップしていった。作文選出に際し看図アプローチ基盤型授業を8回履修した者か16回履修した者かは全く意識しなかった。したがってごく自然にこのような割合になったのである。このパーセンテージの高さは、本授業の目標のひとつである「創造性」の育成が実現していることを示しているのではないだろうか。「創造性」がはたらくということは、そもそも「主体性」がはたらかなければ成り立たない。自ら考え創意工夫をした結果、創造物として表出されるのである。このような理由から、本研究では「創造性」「主体性」育成の同時達成がなされたと見なすことができるのではないだろうか。さらに、「創造性」「主体性」育成のためには看図アプローチ基盤型授業が有効であることも示された。

本研究誌14号で初登場いただいた村山信子氏が、以前、研究会の中で次のようなことを話していた。「(学生は)大学で教わったAの場合・Bの場合の患者さんはみれる。じゃあ、大学で教わっていないCのパターンの患者さんが目の前にいたら、あなた(看護師)はどうするんですか?」



てなりますよね。」看護師でもセラピストでも教師でも、実際の現場では「大学で教わっていないこと」は頻発して起こる。どんな場面に遭遇しても、そこにある「もの・こと・ひと」を冷静に見て、適切に対応していく力が求められる。そのような力をつけるためには、地道な積み重ね（トレーニング）が必要である。

森（2022b）は次のように述べている。学生たちが「世の中に出る時には、『これからどうしていくといいのだろうか。』『この仕事では、何が一番大切なのか。』『目の前の人に対して、何ができるのか。』……などなど、ひとりひとりが価値ある『問い』をもつ心が大切になってくるはずです。／これは、生徒だけではなく、大人である私たちも同じです。この「問い」をもつ心は、小さなことから始められます。その小さなひとつとして、この「看図作文」の授業が位置づく私は考えています。／「問い」をもつことが楽しい。他の人の「問い」、他の人の「答え」を聞く時間が面白い。自分で考えた「問い」に対して自分で「答え」を考えるのがたまらない……。／これまでの学校教育であまり重んじられることのなかったこういった資質や能力を、教室の仲間とともに、試行錯誤しながら、楽しみながら育てることができるのが、この『看図作文』の授業をする最大の魅力でもあり、最大の醍醐味なのです。（p.45）」そして、「学習者のスキルやマインドをピッカピカに磨くことのできるこの『看図作文の授業』を、校種を問わず、そして、教科を問わず、多くの方々に実践していただければ、と強く願っている。（森 2022a, p.17）」筆者も強く同意する。学校や大学を卒業して「問い」を発してくれる「先生」という存在から離れたら、そこからは自ら「問い」を見出し主体的に考え適切に対応していかなければならない。ある日突然できるようになるものではないからこそ、様々な科目を通して看図アプローチ・看図作文を取り入れた学びが必要なのである。

少し時間をさかのぼるが、2020年度の「教育学」授業では次のような考察が見られた。期末レポート課題として「見る教育があるのとないのと

では何が違うのでしょうか。あなたの考えを書いてください。」と出題したものである。なお、「見る教育」は「看図アプローチ」と同義で用いた表現である。1年次の授業では「看図アプローチ」という言葉よりも「見る」という言葉を強調して用いていたためこのような表現をとっている。

#### 2020年度「教育学」履修生1の考察

近年、アクティブラーニングなどの実践的な教育が重要視されている。しかし、日本では「見る」ことを重要視した教育が現在でも不足している。本稿では、見る教育による影響について筆者が考えたことを述べていく。

私は、見る教育を行うことで、物事を立体的に捉えることができるようになると思う。今までの教育では、問題提起をされた文に対して自分自身が考え、それについて論ずることが多かった。しかし、教育の課程を終了し社会で活躍しようとすると、問題を自分から探していくことが求められる。問題文を出してくれる先生のような存在はいないのだ。なので自分自身でどこに着目するか、どういった方法でどんな行動をとるか、それらの最適解を探し出し行動しなければならない。「見る教育」が存在しなければ、教育課程を卒業し、社会の現場に放り出された時に、どのように行動すれば良いかが分からなくなってしまふ。加えて、文章能力は小学生のうちに養わなければ、その後の急速な成長は望めないなどといった、幼い頃から取り組まなければ成長に結びつかない物事も存在する。「見る力」の主は人間として備わっているものであり、それを強化するには幼い頃から体験して行った方が有利であるように感じる。よって、見る教育があるのとないののでは、物事の捉え方の幅や仕事による成果にも差が生じると考える。

よって、私は、見る教育を重要視し、自主的な学びを推奨する。

下線部は、先の森（2022b, p.45）の言葉と

も重なるものである。社会、とくに医療という厳しい世界で生きていくことになるA大学の学生たちにとって、「主体的に考えること」「創造性を発揮して実践すること」は身につけておくべき重要なスキルであると筆者は考えている。また、患者様・同僚等々、たくさんの人と良好な関係を築いていくための素地として、協同的な学びを経験しておくことも必要不可欠である。そのような機会をつくり出すことができるのが、「看図アプローチ」「看図作文」なのである。少ない授業回数の中で、100%すべての学生に看図アプローチによる学びをマスターしてもらうことは難しいことである。しかし、本稿で紹介したような主体性・創造性を発揮したレポートを書いてくれる学生は毎年必ず出てくる。そして、学んだことを「将来」につなげようと考えてくれるようになる。「教育心理学」の全8回の授業を終えての感想を5例あげ、本稿を閉じたいと思う。なお、この感想は期末レポートの看図作文に添えて「主体的」に書いてくれていたものである。

#### 「教育心理学」授業を終えての感想例1

1年生の頃の教育学、そしてこの授業を受けて、自分の意見を伝える楽しさを知ることができました。私は、自分の意見や気持ちを伝えるのがすごく苦手で泣きそうになってしまうので、高校生の頃はいかに自分の気持ちを抑えて過ごせるか考えていました。そのため、部活仲間には意見がない人だと思われ、いいように使われることも少なくありませんでした。ですが、授業で自分の意見を言わなきゃいけない場面になり、最初は抵抗がありましたが、発表してみるとみんながよくそんなこと気づくね！などと反応してくれるのが嬉しくて段々と発言する楽しさが分かるようになりました。今では友達との間の会話でも、みんなと違う意見でもしっかり自分の意見を伝えられるようになったと思います。自分でもそれを感じることが出来ているのが嬉しいです。このような授業は中々ないですが、自分

の成長を自分で感じる事が出来るいい機会を貰える授業だと思うので、ぜひ後輩にも体験して貰いたいと思います。楽しかったです。ありがとうございました。これからもたくさんお仕事あると思いますが、お体に気をつけて頑張ってください。

#### 「教育心理学」授業を終えての感想例2

全ての授業を終えて、いろんな考え方を学びました。本当に楽しくて面白かったです。同じ年代で同じことを勉強してきたはずなのに考えていることは様々で、きっと臨床ではもっといろんな考えをもった患者さんがいると思います。だからこそ技術だけではなく、相手の意見を尊重し、寄り添って行けるようなセラピストになれるように頑張ります。短い間でしたが楽しかったです。ありがとうございました！

#### 「教育心理学」授業を終えての感想例3

毎回とても楽しい授業でした。なので、終わってしまうのがとても悲しいです。これからも主体性や創造性など、授業で習ったことを活かしたいと思います。ありがとうございました！

#### 「教育心理学」授業を終えての感想例4

最後のレポートだからか、今回の課題は、いつもよりなんだか時間がかかってしまいました。同じような3枚のイラストに、どのような違いがあるのかよく見て、整理する作業をし、それをもとに物語を考えるというのは大変さもありましたが、楽しいという気持ちのほうが大きかったです。

そして、ただでさえ長いレポートを、これ以上長くするのはなんだか恐縮ですが、私の話をさせてください。私は、高校で人間関係が上手くいかなくて、大学に入ってから、ずっと人と関わるのを怖がっていました。しかし、教育学で色々な人と話すことができた

り、先生がレポートの返信で何度も励ましてくださったおかげで、なんとか少しずつ、色々な人と話せるようになってきました。前までの私なら初対面の人と話す時、意見が違ったらどうしよう、変だと思われるかな。そうならないようにしないと。と無駄に想像をふくらませて、自分にブレーキをかけていました。しかし教育学や教育心理学を受けているうちに、「同じものを見ていても、切り取る場所や受ける印象は人によって違うものであり、それを楽しんだり、自分の糧にしていくことが大切なのだ」と気がつきました。私にとって石田先生は、教育学を扱うセラピストと言っても過言ではないかもしれません。今の私があるのは、石田先生のおかげです。そんな石田先生や、かわいい白血球のきゅうちゃんと、もう講義で会えないと思うと、すごくさみしい気持ちになりますが、よりよいセラピストになるために、まずは勉強を頑張っていこうと思います。最後になりますが、教育心理学を開講して下さってありがとうございました。いつかどこかでまた、石田先生に会えるといいなと思います

#### 「教育心理学」授業を終えての感想例5

最初に書いたときに1200字あり、削る作業に時間がかかりました。最初に3枚の絵図を見た時に、これ何が違うのかと考えてしまいました。1枚1枚の差があまりなく、私はB①とB②を続けて引いてしまったので難しかったです。今回小学校の先生と生徒とのお話を考えましたが、本当にあったら感動するだろうと思って書いていました。私はそんな問題児ではなかったはずですが、小学校、中学校、高校とそれぞれお世話になった先生方がいます。会いたいなと思って今どこに勤めているのかわかりません。私にとっては思い出の先生ですが、先生にとっては数多の中の生徒なのかなと思い、もう覚えていないのだろうかと思ってしまう。顔もしっかり

思い出せないくらい時間が経ってしまいましたが、いつか会って先生があまり覚えていなくても感謝を伝えたいなと思いました。

教育心理学が終わってしまって悲しいです。先生は他の先生と違って優しく、穏やかでした。私たちの担任の先生は少し厳しくホームルームがあると、5分前には席につき、ペンとメモ用紙を机の上に出して始まるのを待っています。緊張感が漂う空間です。先生の授業が楽しかったという意味ではなく、のびのびと授業を受けられ、正解がなく主体性を求めているこの授業が新鮮で好きでした。文を書くことに慣れ、長く書けるようになりました。自分の意見に自信が持てるようになりました。自分は稀に他人とは異なるものの見方をしていることに気づかせてくれました。初めて話す人でも会話が続くようになりました。意見が分かれても良いのだと知りました。このようにこの授業を通して沢山のことを学びました。いつも受けているセラピストになるために必要な知識ではなく、自分がレベルアップできるために必要なスキルを教えてもらったと感じています。これからは教えて頂いたことを身につけて、セラピストとして将来に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました！

筆者自身恐縮してしまうような感想もあったが、有難く、素直に受けとめたい。

筆者は「美術」と「教育」を専門としている。学生の頃から「美術」と「教育」がどのように結びつけられるのか考え続けていた。美術を学んできた人間だからこそできる教育へのアプローチとは何か…。その問いの「最適解」が「看図アプローチ」「看図作文」である。「教育心理学」授業を終えての感想例1の学習者が述べているように、「看図アプローチ」「看図作文」の授業は実際に、「自分の成長を自分で感じる事が出来るいい機会」になるものである。授業は、教師が一方的に教え込むのではなく、「○○できるようになった」と

学習者自身が感じられるようファシリテートしていくことが重要である。そしてそのファシリテートを円滑にするのに看図アプローチは大変有効である。看図アプローチにはビジュアルテキストが必須である。筆者はこれまで数多くのビジュアルテキスト・絵図を制作してきた。ビジュアルテキスト・絵図をつくり出すこともまた主体性と創造性を伴う行為である。主体性と創造性をみかくことを学生にのみ求めるのではなく、筆者自身もみがき続けていきたい。

### 引用・参考文献

- 石田ゆき 2021a 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際－医療系大学における『教育学』授業を例にして－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』5号 pp.3-16
- 石田ゆき 2021b 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（2）－写真をビジュアルテキストにした『教育学』授業のすすめ方－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6号 pp.16-29
- 石田ゆき 2021c 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（3）－ビジュアルリテラシーを定着させるための『教育学』授業のすすめ方－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』7号 pp.3-18
- 石田ゆき 2021d 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（4）－写真をビジュアルテキストにした『教育学』授業【江別・高岡完結編】－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』8号 pp.3-22
- 石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ－絵本づくり授業実践の報告－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15
- 森 寛 2020 「『看図作文』のススめ誌上・模擬授業体験を－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』2号 pp.12-19
- 森 寛 2022a 「『看図作文』の授業レポート－『20枚の絵図』で願いを伝える－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』13号 pp.3-17
- 森 寛 2022b 「『看図作文』の授業を始めたくなったら－コレだけ知っていれば、自信をもてる！－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』14号 pp.33-46
- 鹿内信善 2003 『やる気を引き出す看図作文の授業－創造的〔読み書き〕の理論と実践』春風社
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方－看図アプローチで育てる学びの力』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善編著 2010 『看図作文指導要領－「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン－』溪水社
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レパトリ－』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2020 「アクティブ・ラーニングを引き出す『保育の心理学』の授業づくり－看図アプローチを活用して－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』4号 pp.24-43
- 鹿内信善・栗原裕一・渡辺聡・伊藤公紀・石田ゆき 2007 「看図作文の授業開発（Ⅰ）－心理的リアクタンスを作文の動機づけに活用する試み－」『北海道教育大学紀要（教育科学編）』第57巻 第2号 pp.101-111
- 鹿内信善・渡辺聡・石田ゆき・伊藤公紀・栗原裕一 2008 「看図作文の授業開発（Ⅴ）－インプット・アウトプット法に活用する絵図の作成－」『初等教育・教師教育・社会教育研究年報いわみざわ』第29号 pp.29-40
- 高橋誠編著 2002 『新編創造力事典』日科技連

2022年10月24日受付

2022年11月1日受理

## 実践ノート

# 幼児教育における安全管理に関する授業実践 —看図アプローチからの新たな学び—

仲村 彩<sup>1)</sup>・山下雅佳実<sup>2)</sup>

NAKAMURA Aya YAMASHITA Akemi

キーワード：看図アプローチ・幼児教育・安全管理

### I. はじめに

第1筆者仲村はA大学の児童幼児学科で看図アプローチの手法を活用した講義を見学しました。講義に参加していた学生は、写真1枚から様々な「もの」を見つけるとともに、気温や湿度などの環境を考察し、それが子どもにどのように影響するのかというところまで学んでいました。学生が写真1枚から様々なことを読み取り、講義の中で深い学びを得ている姿を見て、私（第1筆者仲村）が保育者を志す学生を対象に同様の講義を行った場合、どのような反応が得られるか興味を持ちました。そしてこのたび、看図アプローチを活用した講義を実施することとしました。

### II. 授業対象者及び授業日等

B大学幼児・保育専攻の学生66人を対象に「子どもの健康と安全」という科目の第1回目授業で実施しました。授業者は第1筆者仲村です。

授業日時は、2022年9月26日(月)1限(9:00～10:30)と2限(10:40～12:10)です。なお、学生の記入したワークシートや感想を本稿に掲載するにあたり、目的や方法、参加は自由意志で拒否や中断に不利益がないこと、結果は匿名性を保持して公表すること、研究への不参加が講義評価等に影響しない旨を口頭で説明し、同意書へ署名

してもらいました。署名は33名の学生から得ることができました。

### III. 授業の実際

授業には第2筆者山下が開発した教材・授業案及びスライドを活用しました。まず、学生にはスライド1(図1)にて2枚の写真を掲示し、各々の写真に写っている「もの」を7つ探してもらいました。

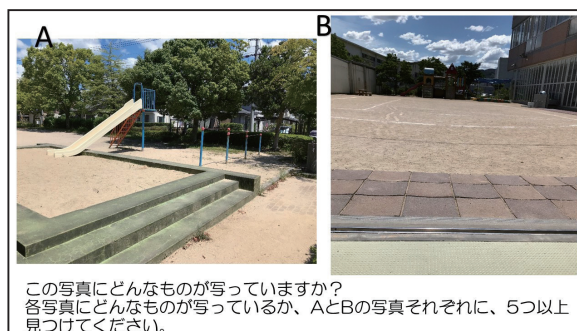


図1 スライド1

学生が個人で写真の中から見つけた「もの」は、グループ内で共有を行い、クラス全体でも共有を行いました。学生は、「砂場」「滑り台」「階段」「電柱」「ブロックタイル」「段差」「空」「木」「日陰」「ベンチ」「鉄棒」「校舎」「グラウンド」「段差(レール)」など様々な「もの」をあげてくれました。教員が「見て探してください」と伝えただけで、いろいろな

1) 筑紫女学園大学

2) 中村学園大学短期大学部

発見をしてきていました（図2・3・4）。

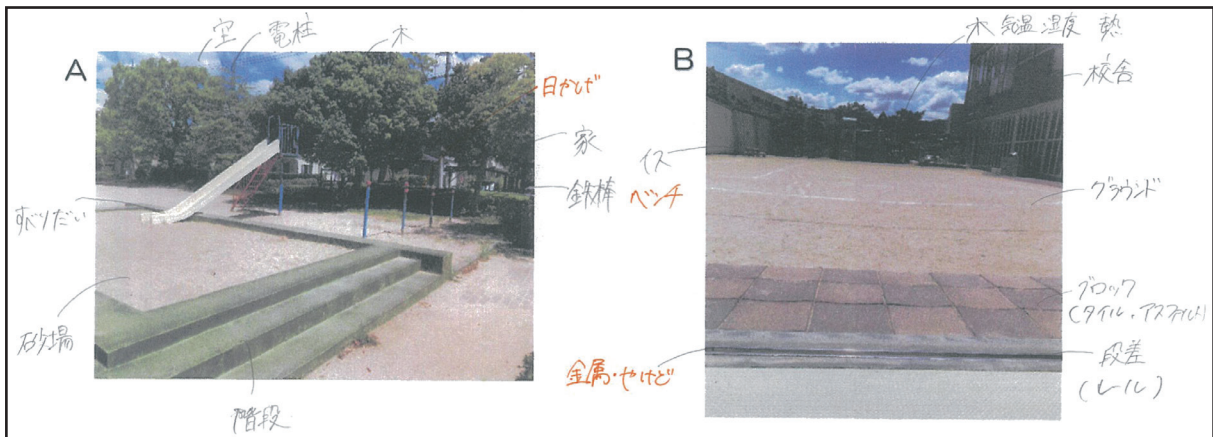


図2 学生のワークシート書き込み例1

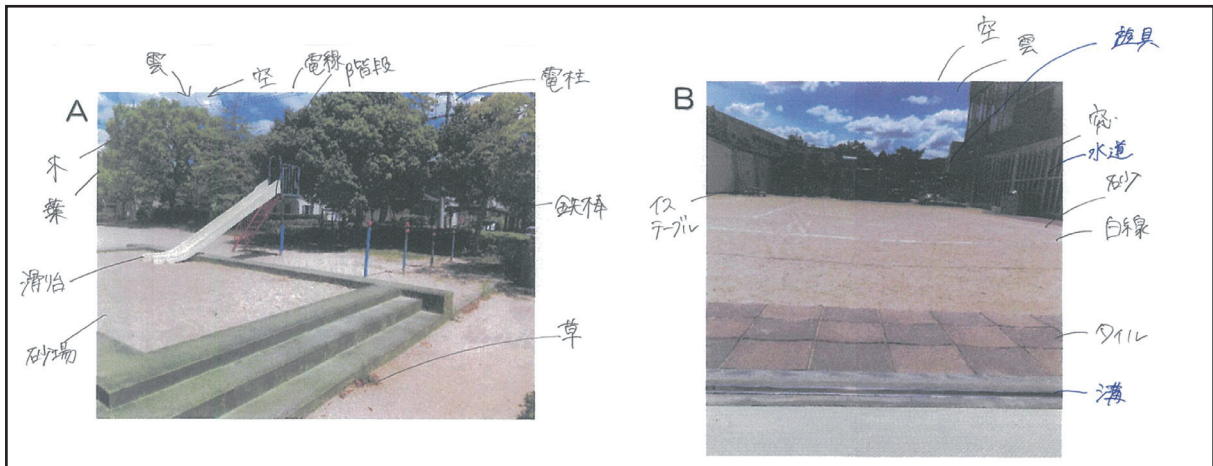


図3 学生のワークシート書き込み例2

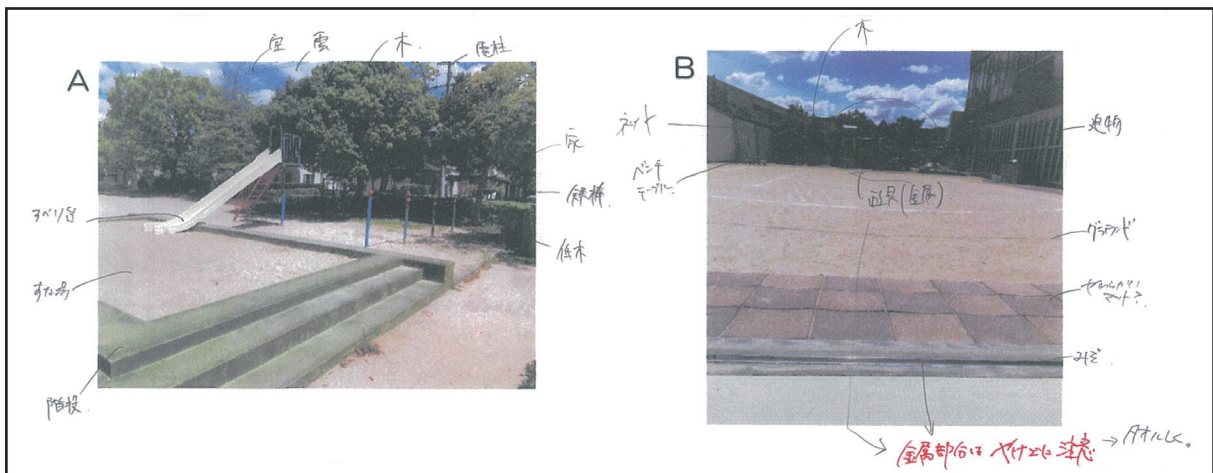


図4 学生のワークシート書き込み例3

次に、スライド2（図5）の写真を提示し、子どもを遊ばせることを想定したうえで、保育者としてどんなことに気をつけなければならないのか、個人で考えてもらいました。考えてもらった時間は5分程度です。

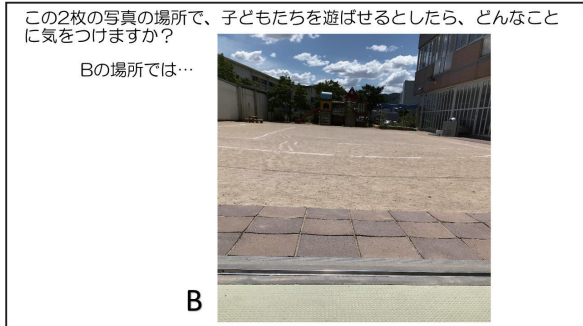


図5 スライド2

個人思考の後、グループ内で発表してもらいました。その際、気をつけることで、自分が考えていなかったこと、思いつかなかったことなどが発表された時は、青や赤でワークシートに追加するように伝えました。

クラス全体でも共有するため、各グループの学生に発表してもらいました。以下に学生の発表内容を紹介します。

- ・グラウンドに危険なものが落ちていないか確認して遊ばせる
- ・建物の近くだと怪我したりボールでガラスが割れたりするので、写真のように白線を引いてその中で遊べるようにする
- ・レールの外が道路であれば、レールの外には出ないということを声掛けしておく。もし

閉めることが可能であれば、前もって（窓を）閉めておく

- ・ボール遊びは窓ガラスの近くではしないことを伝える
- ・手前のタイルみたいな所は転ぶと危ないので気をつける
- ・日陰の場所が少ないので熱中症にならないように注意する
- ・車の侵入に気をつける
- ・人が少ないところを注意する
- ・建物のガラスが割れる可能性があるので見守る
- ・水分補給、熱中症に気をつけるように呼びかけ
- ・日陰での休息ができるようにする
- ・外に出ないように見守る
- ・子ども同士がぶつからないようにする
- ・レールに手を挟まないようにする
- ・タイルが他の所より熱くなっているのを、やけどしないようにする
- ・遊具が高そうだから転倒に気をつけるように
- ・遊具やレールなどの金属類はやけどのもと
- ・タイルでの転倒防止
- ・手前のレールでは転びやすいと思うので手をつないだりして注意する
- ・怪我や困っている子がいないかチェック

実際の書き込み例を3つあげておきます（図6・7・8）。

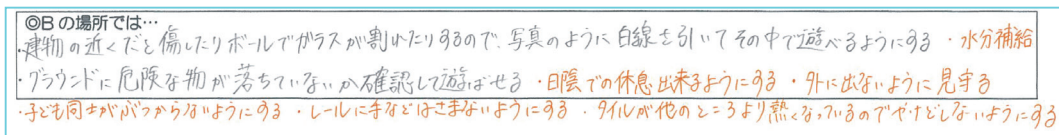


図6 気をつけることの書き込み例1

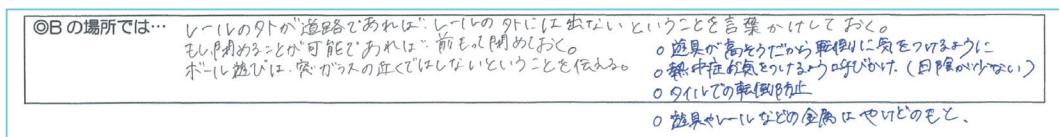


図7 気をつけることの書き込み例2

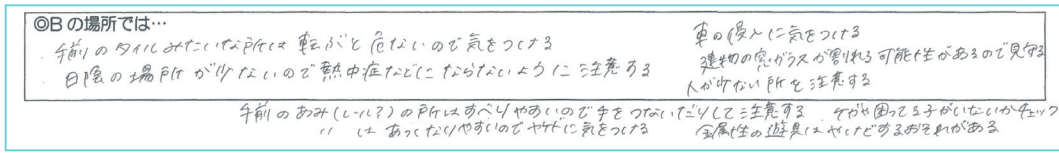


図8 気をつけることの書き込み例3

写真1枚から子どもの特性を考え、気をつけな  
 いといけないうちやリスクに関して一定程度、想  
 定している様子が見受けられました。

「気をつけないうちや」とをクラス全体  
 で共有した後、写真を再度見てもらい、写真を撮っ  
 た季節と時間をグループ内で話し合っ  
 て考えてもらいました。学生たちからは「この写真から季節  
 や時間を当てるの難しくない?」「え?わかん  
 ないし…」というような発言もありましたが、グルー  
 プで互いに話し合いながら、季節や時間を共に考  
 えている様子がうかがえました。

グループでの検討後、なぜその季節や時間と判  
 断したのか根拠を含めて発表してもらいました。  
 「撮影した季節」(時期)については、1限のクラ  
 スでは、6月と答えてくれたグループが1グルー  
 プ、7月と答えたグループが5グループ、8月お  
 よび9月と答えたグループがそれぞれ1グルー  
 プありました。2限のクラスでは、8月と答えた  
 グループが6グループと最も多く、7月および9  
 月は1グループずつが「そうだと思う」と答え  
 ました。

「撮影した時間」の学生の予想は、1・2限の  
 クラスのグループのほとんどが12時から14時  
 の時間帯と答えていました。12時と答えたグルー  
 プが7グループ、13時と答えたグループが6グ  
 ループ、13時半と答えたグループが2グループ、  
 14時と答えたグループが2グループありまし  
 た。時間についてどんなことを根拠にしたのか詳しく  
 聞きました。学生たちは「影が短い、太陽が真上  
 にある時間帯だと思うから」「(なんとなく見た感  
 じが)太陽カンカン照りの時間かな」「人が全く  
 いない、もしかしたら暑すぎているのか」「子  
 どもの寝ている時間帯かな、と思いました」とい  
 う内容を発表してくれました。

季節と時間の予想を発表してもらった後に、ス  
 ライド3(図9)によって正解を発表しました。

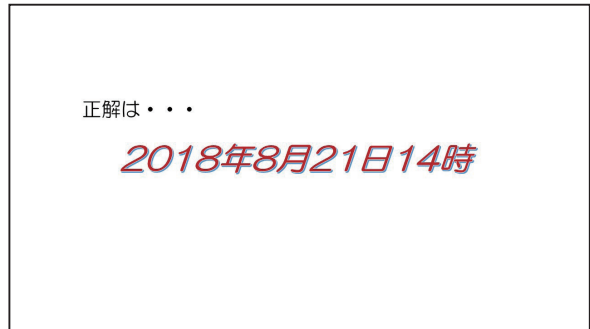


図9 スライド3

学生たちの反応は「あ～！季節はあっているけ  
 ど、時間が微妙だった～」「時間の予想が難し  
 かった」「暑そうだなと思っていたから、夏だろ  
 うなとは思っていたけど…」と自分たちが予想  
 していたことと写真撮影を行った事実の少しの  
 ずれに悔しさを感じた様子が見られました。写  
 真の撮影時期と時間の両方が正解できたグルー  
 プは、1グループのみでした。このような学生  
 の反応を見ると、写真を通して他者と話を交  
 わす機会を設けるだけで、こんなにも講義に  
 一生懸命に参加する姿勢を見ることができ  
 るのかと感動しました。

また、学生は季節や時間を発表する際に、「高  
 校や中学の時に習った気がしたから、なんと  
 かな(そう思った)」という発言も交えなが  
 ら発表をしていました。学生たちは、今まで  
 自分たちが勉強して身につけた理科の知識  
 (既有知識)を活かしているようでした。今回  
 の講義で、その知識を活かす場面が生じたこ  
 とで、記憶をたどりながら、写真の景色を  
 読み取る力を発揮しているのだなと感じまし  
 ました。そして私が一番驚いたのは、まだ保  
 育実習に行っていないにも関わらず、子  
 どもの生活リズムをある程度予想できていた  
 ことで



す。もしかしたら、身近に保育所や幼稚園に通園する子どもがいた可能性もあって、このことが予想されたのかもしれませんが、実際に発表した学生にその背景を聞き取ることはできませんでした。

グループで季節や時間の根拠について検討しあう学生の様子から、学生自身がインプットしていた情報(学んだこと)を他者へアウトプットし、共有しあう(理解しあう)ことは、学生同士の間で強く記憶されるとともに、学びをさらに深めるのではないかと感じました。

写真を撮った季節と時間を学生へ伝えた後、子どもの身体機能や発達の話とともに、日々の気温や湿度などの環境も常に気にして、子どもと関わることが必要であると説明を行いました(図10)。

子どもと関わる者として環境に配慮を怠ると、どうなるかということ問いかけるとともに、真夏にマンホールの上に転んで手をついた子どもの手がやけどしている写真を見せました。やけどの写真を提示すると「うわ…」と言い、目を伏せる学生もいて、とても反応が大きかったです。講義終了後のふりかえりの中にも「子どもの皮膚が弱い(薄い)ことを知り、軽く熱いものに触れるだ

けでやけどしてしまうことに驚いた」という素直な感想を得ることができました。

また、子どものやけどの写真を提示した後、私(第1筆者仲村)自身が子どもと公園に遊びに行った時のことを具体的に話しました。次のように伝えました。

「その日は8月某日の雲一つない晴天で、朝9時の時点で気温が30度を超えていました。公園には私たち以外に誰も人はおらず、『滑り台を独り占めできる!』と子どもは喜んで、滑り台を滑ろうとしました。しかし、私が子どもより先に滑って熱さを確認したところ、ズボンを履いて滑っても熱いと感じたので子どもには滑らせませんでした。滑り台の熱さも危険でしたが、朝9時の時点で、気温が30度以上でかつ、公園に日影はありませんでした。子どもには何度も水分補給を行っていましたが、汗が滴れるほどであったため、30分滞在することが限界でした。」

学生の感想には「真夏になると金属類が50度近くまで熱くなることを知らなかった」「熱中症や水分補給の大切さがわかった」「外で遊ばせることはいいことだけれど、常に危険と隣り合わせにある」「周囲には目に見えてわかる危険と逆に見えにくいこともたくさんあることが分かった」



図10 スライド4

「子どもが屋外遊びをするときには、考えれば考えるほど注意すべき点が出てくる」「子どもの話と一緒にしてくれるので、自然とひきつけられる、想像しやすい」などがありました。スライドに加えて、実体験を話すことで、学生にはより身近なものになったようでした。スライドを通して話すことも学びを深めるツールになりますが、学生にもわかりやすく想像しやすい話をプラスで行うだけでもさらに学びが深まることを実感できました。

また、次のような記述もありました。「一つの写真からどんなことが起きるか予想を立てるのは難しかった」「写真に写ったものを見て、何に気をつけたらいいのかを知ることができた」「自分の考えだけでなく、他者の気づきも共有することで違う視点を見つけることができた」「保育者になってからではなく、日常生活でも大切なことを知ることができた」など多くのことを考え、気づいてくれているようでした。自分だけの考え・意見だけでなく他者からの視点を得る必要性も学生は学べたのではないかと感じました。

#### IV. 考察

本研究で第1筆者仲村は初めて看図アプローチを活用した授業を行いました。学生1人ひとりが保育者になる者として深い学びをしていたことが感想から伝わってきました。学生が個人で考える作業も大切ですが、他者と会話を交えて共有することで、お互いにいろいろな視点を得ることもでき、学生1人ひとりの学びがさらに深まったのではないかと思います。第2筆者から看図アプローチは協同学習のツールの一つであることは聞いていましたが、協同学習に初めて取り組んだ私でもこのように効果があるとは思っていませんでしたので、とても驚きました。

また、写真を読み取ることからの学びに加えて、学生に身近なことを話すことで、具体的に保育者として子どもを屋外で遊ばせるときの注意点や配慮しなければならないことをリンクさせることもできたのではないかと思います。ただ単に私の

実体験の話をしただけでは、ここまで学生がやけどや目に見えないことにまで気付くことはなかったのではないかと思います。

今回、看図アプローチを見よう見まねで行いましたが、学生にはどのような反応が起きるのか、正直不安な部分もありました。写真から得た情報を学生がどのように解釈するのか、私（第1筆者仲村）自身が意図しないものも出てくるのではないかと、本来学ぶべきことからずれてしまうのではないと思う部分もありました。しかし学生は、シンプルに物をとらえて、しっかりと観察し、そこからいろいろなことを考える力を持っていました。私はこのことに気づくことができ、私自身の学びになりました。看図アプローチで私自身も楽しく講義を行うことができたので、また機会があれば看図アプローチを用いた講義を行っていきたいと思います。

#### 引用・参考文献

- 鹿内信善 2015『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方 看図アプローチで育てる学びの力』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2020 「アクティブ・ラーニングを引き出す『保育の心理学』の授業づくり—看図アプローチを活用して—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』4号 pp.24-43
- 鹿内信善・山下雅佳実 2016 「看護学の教育課程に適合した看図アプローチによる授業づくり—「小児看護学」での実践—」『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第2号 pp.1-12
- 山下雅佳実 2022 「多職種連携教育プログラムの開発—『看図アプローチ』で子どもと保育と看護をつなぐ—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』10号 pp.33-52

注；本研究の一部に科学研究費 22K02249 をあてた。

2022年10月29日受付

2022年11月2日受理

## 編集後記

看図アプローチに関心はあるけれど「ビジュアルテキストの見つけ方が難しい」「発問の作り方が分からない」。このように考えている先生方は多いのではないのでしょうか。前田敏和・溝上広樹の第1論文は、そのような先生方にたくさんのヒントを与えてくれると思います。ぜひ読んでいただきたい好論文です。お読みいただければ、あの苦手だった「化学」が好きになります。それほど素晴らしい看図アプローチ授業実践です。

石田ゆきによる第2論文も面白い取り組みです。石田は、森 寛が中学校で行った看図作文授業の追実践を、大学授業の中で試みています。もともと授業上手の石田が、看図作文授業実践数日本一である森の授業を追実践するのですから、上手くいったあたり前と言えはあたり前です。しかし、看図作文・看図アプローチだからこそ、追実践によっても様々な教育効果が認められるのだと思います。

石田論文のもうひとつの特徴は、26編もの看図作文を紹介できていることです。看図作文の授業をすると、ほんとうに素晴らしい作文が数多く生まれてきます。この「すごさ」を伝えるためには、「すごい」作文をたくさん紹介するのもひとつの方法だと思います。今回は、本誌が電子ジャーナルだという特徴を活かして、数多くの作文を紹介できています。素晴らしい作文を書してくれた学生さんたちも「すごい」のですが、作文をひとつひとつ読んでいただけたら、看図作文の「すごさ」も実感できると思います。

仲村 彩・山下雅佳実による第3論文も追実践を含んでいます。もとになっているのは、看図アプローチ授業のモデルをたくさん生み出している山下雅佳実の実践です。これを「看図アプローチはじめて」の仲村が追実践しています。もちろん、仲村自身も納得がいく追実践になっています。

看図アプローチは少しアレンジするだけで様々な授業に活用できます。これまで本誌に発表されてきた数々の実践の追実践も試みてください。実践されたら、論文にまとめてご投稿ください。追実践論文も大歓迎です

文責 鹿内信善

—— 全国看図アプローチ研究会研究誌 15 号 ——

発行年月日 2022 年 11 月 11 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善\*

山下雅佳実

渡辺 聡

(\* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com



事務局 長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき